

セラレタリ然リ而シテ其後右舊貨幣偽造事件ニ付原檢察官ハ新ナル証憑ヲ發見シ會議局ノ判決ヲ經テ更ニ起訴シタルモノト見ヘ其手續類ニ詳カ河原清三郎寺田清吉黒田與右衛門越中喜三郎高田甚祐及ヒ被告ノ六名ヲ豫審ニ付シタル未被告等六名ハ舊貨幣偽造行使等ノ罪アリト看認ラレ金澤重罪裁判所ニ移ス旨ノ豫審終結言渡ヲ受ケ被告及ヒ越中喜三郎高田甚祐ノ三名ハ其言渡ニ對シ會議局ニ於テハ詐欺取財ノ罪アリト爲シ金澤輕罪裁判所ニ移ストノ判決ヲ與ヘタリシカ公判ニ於テ三名共舊貨幣偽造行使ノ點ニ付テハ各無罪ノ言渡ヲ受ケタリ而シテ河原清三郎寺田清吉黒田與右衛門ノ三名ハ右豫審終結ノ言渡ニ因リ金澤重罪裁判所ニ移サレ同裁判所ニ於テ明治十九年四月十五日舊貨幣偽造行使ノ所爲ニ付與右衛門ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルモ清三郎清吉ノ兩名ハ該偽造ノ舊貨幣ヲ以テ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタルノ罪アル者ト看認ラレ即チ刑法第三百九十條ニ依リ清三郎ハ

重禁錮一年罰金十圓ニ清吉ハ重禁錮三月罰金二圓ニ處スル旨ノ言渡ヲ受ケタリ因テ被告ハ果シテ誣告ノ罪アルヤ否ヤヲ審案スルニ抑舊貨幣偽造ノ如キハ縱令之ヲ行使スルモ詐欺ノ所爲アルモノニアラサルヨリハ法律上罰セサル所爲ナルヲ以テ假リニ被告カ不實ノ事ヲ訴ヘタルモノトスルモ決シテ誣告ノ罪ヲ構成セサルモノトス故ニ加納茂平越中喜三郎ニ對シテハ舊貨幣偽造シタリト云フニ止マルヲ以テ其誣告トナラサルハ固ヨリ論ヲ俟タス然ラハ則チ清三郎清吉ノ兩名カ詐欺取財ノ罪ニ處セラレタルハ被告ノ誣告ニ因テ陷害セラレタルモノナル乎決シテ然ラス此兩名カ詐欺取財ノ罪アルコトハ金澤重罪裁判所ノ言渡アリ被告カ不實ノ訴ヲ爲シタルニアラサルコト明瞭ナレハ是亦決シテ誣告ニアラサルナリ然ラハ則原裁判所ニ於テ被告ニ誣告ノ罪アリト爲シタルハ法律上罪セサル所爲ニ對シ刑ヲ科シタル者ナルモ當時此論旨ニ對シ上告ヲ爲ス者ナク遂ニ原裁判確定シタルニ

因リ爰ニ及非常上告候條治罪法第四百三十五條ニ從ヒ該裁判官渡ヲ破毀シ更ニ無罪ノ旨渡ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ非常上告ハ其理由アルモノト認メ治罪法第四百三十五條ニ從ヒ原裁判官渡ヲ破毀シ被告カ所爲即チ河原清三郎等ニ對シ舊貨幣偽造行使ノ所爲アリト訴出タルハ罪トナラサルモノトシ刑法第二條治罪法第三百五十八條ニ則リ已決囚明珍修太郎ニ對シ無罪且放免スト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑原告罪ヲ斷スルハ人ヲ陷害スルノ目的ヲ以テ法律上有罪ニシテ且不實ニ係ル事柄ヲ訴出タル場合ニアルコトハ多言ヲ俟サル所ナリトス故ニ暫ク被告ハ河原清三郎等ヲ陷害セントスルノ目的アリテ舊貨幣偽造行使ノ所爲アリト訴ヒタルモノトスルモ舊貨幣ノ如キハ明治七年第九十三號公布ヲ以テ一般ノ通用ヲ廢止セラレ當時既ニ法律上通貨タルノ性質ヲ失ヒ從フテ之レヲ偽造スルモ刑法ノ制

裁スヘキモノニアラサレハ被告ハ事ヲ爲スノ始メヨリ目的ヲ遂成スルコト能ハサル事即チ法律上罪トナラサル事柄ヲ訴ヒ出タルモノト做サハルヲ得サルノミナラス偶マ之カ爲メ處刑セラレタルモノアリトスルモ被告カ訴ヒ出タル事柄ノ不實ニアラサリシコトヲ徵シ得ヘキヲ以テ被告カ所爲ハ到底誣告罪ヲ構造セサルコト益明カナリトス然ルニ原裁判所ニ於テ之ヲ罰シタルハ非常上告論旨ノ如ク法律上罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリトス

盜竊ニ關ス

○詐欺取財ノ件明治十九年七月十八號

人ノ遺失物タルヲ知り之ヲ還付セス質入レシタルモノハ詐欺取財ヲ以テ論スヘキヤ將タ竊盜罪ニ問フヘキヤ

岐阜縣美濃國羽栗郡笠松村平民村井重太郎ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

本件ノ事實被告村井重太郎ハ明治十七年八月二日京都輕罪裁判所ニ於テ詐僞取財ノ罪ニ依リ重禁錮二月廿日罰金五圓監視六月ノ處刑ヲ受ケ主刑滿期後京都府下京區第九組防門町浦崎茂助方ニ於テ付加刑ノ監視執行中第一明治十八年二月十五日許可ヲ得スシテ下京區第一組猪熊通錦小路下ル町田中平八方へ擅ニ住居ヲ轉シ監視規則ニ背キ第二明治十七年十一月廿八日下京區第十七組松原通醒井東へ入ル町藤井辨次郎外一名ヲ下京區第十七組松原醒井辻ヨリ下京祇園町北側迄乗車サセ該車ノ内ニ藤井辨次郎カ所有ノ青色ケツト壹枚遺シ置キタルヲ知テ其儘持歸リ所有主ニ還付セス下京區第九組西田町古川キノ方へ代金拾五錢ニ入質シタルモノニテ明治十八年五月廿三日初審裁判所ハ被告カ所爲即チ第一監視規則違犯第二遺失物隱匿ノ二罪ヲ刑法第百五十五條同第三百八十五條同第九十二條同第八十一條同第百條第三項ニ照シ一ノ重キ同第三百八十五條ニ依リ再犯ニ付一等ヲ

加ヘ犯時二十歳ニ滿タサルヲ以テ一等ヲ減シ重禁錮三月ニ處スル旨言渡シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告第一ノ罪ニ對スル部分ハ適當ノ裁判ナリト雖モ第二ノ事實タル藤井辨次郎外一名ヲ其指示スル所迄乗車セシメ辨次郎カ車中ニ忘レ置キタル毛布一枚ヲ其儘持歸リ他ニ入質シタル者ナレハ刑法第三百九十三條ニ依リ詐欺取財ヲ以テ論スヘキ者ナルニ原裁判所ニ於テ遺失物隱匿ノ罪トナシ處斷シタルハ擬律錯誤ナリ又刑法第九十九條ニ基キ同時ニ加減スル時ハ初メ一等ヲ加ヘ後一等ヲ減シ本刑ニ復スヘキ者ナルニ原裁判ノ玆ニ出テサリシハ又擬律錯誤ナリト云フニ在リ刑事局ニ於テハ上告論旨ハ總テ其理由ナキモノトシ之ヲ棄却シタルモ原裁判所カ遺失物隱匿ヲ以テ論シ刑法第三百八十五條ヲ適用シタルハ擬律ヲ誤リタルモノト認メ治罪法第四百二十一條ニ從ヒ此一部分ノ裁判ヲ破毀シ刑法第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ

該ルト雖モ再犯ニ係ルヲ以テ同第九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ニ該リ犯時二十歳ニ滿タサルヲ以テ同第八十一條ニ照シ宥恕シテ一等ヲ減シ一月二十六日以上三年九月以下ノ重禁錮ニ該ルモノトシ其範圍内ニ於テ被告重太郎ヲ重禁錮二月ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ照シ監視六月ニ付シタルモノニ係ルニ其理由ニ曰ク抑刑法第三百八十五條ノ所謂遺失及漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿云云トハ道路或ハ河海等ニ於テ偶然遺失及漂流ノ物品ヲ見當リ拾得タル時ハ其所有主分明ナルト否トニ論ナク直チニ是ヲ官署ニ申告スルカ又ハ所有主分明ナル場合ニ在テハ還付スルカノ手續ヲナサス隱匿スル者ヲ罰スルノ法文ニシテ其盜取ノ意ナキ者ニ適用スヘキ者ナリトス今原判文ヲ閱スルニ其中段ニ藤井辨次郎外一名ヲ下京區第十七組松原醒井辻ヨリ下京區祇園町北側迄乗車サセ該車ノ内ニ藤井辨次郎カ所有ノ青色ケット一枚遺シ置キタルヲ知テ其儘持歸リ

所有主ニ還付セス下京區第九組西田町古川キノ方ハ代金十五錢ニ入質云云ト事實ノ記載アルニ依レハ其ケットヲ持歸リシハ入質ノ爲メノ思想ナルヲ判然タリ素ヨリ被告ハ其身車夫ニシテ乘客ノ其車ニ遺シ置キタルケットナルヲ知り質入シテ利ヲ得ンカ爲之ヲ持歸リシ所爲タル純然タル竊盜ノ所爲ニシテ遺失物ヲ拾得隱匿スル者ト異ナリトス故ニ被告ハ刑法第三百六十六條ニ問擬スヘキ者ナルニ原裁判ノ玆ニ出サルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス故ニ詐欺取財ナリトノ上告論旨ハ相立ス又刑法第九十九條ニ照シ同時ニ刑ヲ加重減輕スル時ハ其加重シタル刑ヨリ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等トナスヘキ者ナリ故ニ初メ一等ヲ加ヘ後一等ヲ減シ本刑ニ復スヘキ云云ノ論旨モ亦理由ナキ者トス

○竊盜ノ件明治十九年
第八百貳拾壹號

死亡後相續人未定ノ際亡者ノ財産ヲ竊取シタルモノハ竊盜ヲ以

ヲ論スヘキヤ否

終審廳ニ於テ初審裁判ト事實ニ差異ノ判定ヲ爲シ原裁判ヲ是認シ

タル場合ハ該裁判ハ破毀ノ原由アルヤ否

京都府上京區第三十三組北門前町五番戶淨土宗大恩寺住職平民
僧寺村隨願ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

終審 大坂控訴裁判所

本件ノ事實ハ明治十八年十二月二十八日初審裁判所ニ於テ被告寺村
隨願ハ明治十八年十一月廿三日京都府上京區第三十三組北門前町四
番戶西方寺住職郁芳信定死亡セシ翌廿四日同寺ニ至リ死者埋葬等ノ
準備中其雜沓ニ際シ此日午前十時頃其本堂佛壇ノ内ニ在リシ亡信定
所有ノ公債證書金高貳千七百五拾圓ヲ竊取シタルモノト判定シ刑法
第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮三年六ヶ月監視一年

ニ處シタルニ之ヲ不當トシ被告ハ控訴ヲ爲シタリ終審裁判所ハ控訴
ノ旨趣ハ採用スヘキ理由ナキモノトシ更ニ被告ハ前顯死者埋葬等ノ
準備中亡信定所有ノ公債證書ヲ竊取シ其幾部ヲ他ニ預ケ其幾部ヲ賣
却シ又ハ他ニ抵當ニ爲シ其金員ヲ費消シ而シテ竊取ニ係ル總額ハ起業
公債證書額面金三千貳百五拾圓ト事實ノ判定ヲ爲シ被告カ所爲ハ刑
法第三百六十六條同第三百七十六條ヲ適用スヘキモノナルニ付治罪
法第三百六十八條同第三百四十四條ニ依リ原裁判ヲ認可 初審ノ事實
ト差異アル
事實ノ判定ヲ爲シ
原裁判ヲ是認スト言渡シタルニ又之ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ
タリ其要旨ハ原裁判所カ認定セシ事實ニ依レハ被告隨願ハ明治十八
年十一月廿四日京都上京區第三十三組北門前町西方寺本堂佛壇ノ内
ニ在リシ亡信定カ所有ノ公債證書ヲ竊取シタルモノトセラル、ニ在
レハ其竊取ノ當時信定カ死亡後ナリシトハ寔ニ明カナリ果シテ然ラ
ハ死者財産ヲ所有スルノ權ヲ有セサレハ亡信定カ所有ノ公債證書ト

云フ可ラスシテ他ニ其權ヲ繼襲スヘキ所有者ナカル可ラス之ヲ繼襲
 スヘキモノハ養嗣子安之輔是ナリ而シテ被告ハ其承諾ヲ得テ之ヲ專
 用セシモノナレハ固ヨリ竊取ニアラス凡ソ犯罪物件ノ何人ノ所有ニ
 屬ス可キヤ否且何人ノ保管ヲ侵セシヤ否ヤハ盜罪構造ノ一要件ナリ
 本案公債證書ノ如キ死者所有權ヲ有セス又保管占有權ヲ有セサルノ
 理ヲ推セハ爰ニ養嗣子安之輔ノ所有トセサルヲ得ス既ニ安之輔ノ所
 有トセンカ被告ハ其承諾ヲ得タルモノニシテ竊取シタルニアラサル
 ナ尙ホ亡信定ニ於テ所有權ヲ有スルモノ、如ク又ハ保管シ被告其占
 有權ヲ侵セシモノ、如ク認定サレシハ盜罪構造ニ必要ナル事實ノ理
 由ニ誤謬アルモノニシテ治罪法第四百十條第九ニ該當スル不法ノ裁
 判ナリ又大阪控訴裁判所ハ京都始審裁判所ノ裁判ヲ認可サレタルニ
 モ拘ハラズ竊取ノ公債證書ノ總額ハ始審ニ於テハ貳千七百五十圓ノ
 認定ナリシニ控訴ニ於テハ三千貳百五十圓也トセラレタリ是亦甚々

不法ノ裁判タルヲ免レス被告カ預リタル公債證書ハ實ニ貳千貳
 百圓ナレハ始審ニ於テ之ヲ貳千七百五十圓ト認定セラレシハ證人阪
 上捨三郎ノ證言ニ誤ラレタルト被告カ自ヲ誤リテ其高ニ相違ナシト
 ノ申立ヲ爲シタルニ原因スルモノナラン然ルニ控訴ニ於テハ三千貳
 百五十圓ト認定セラレシハ失當ニシテ其證憑ナシ金額ノ多寡ハ明示
 セサル可カラス何トナレハ擬律ノ如何刑期ノ長短ハ公私被害ノ輕重
 ニ基因決定セラル、モノナレハナリ故ニ金額ニ對シ始審ノ認定ヲ繼
 更センニハ必ラスヤ其證憑ヲ揭示シテ特ニ辯解ヲ爲サシメサル可ヲ
 ス且其費消先金額等ヲ審糺シテ事實ノ理由ヲ付セサル可ヲサルニ原
 裁判茲ニ出テスシテ漫ニ總額ヲ三千貳百五十圓也トノ認定ヲ下サレ
 シハ事實ノ明示ヲ欠キタル不法ノ裁判ニシテ且越權ナリ依テ破毀ヲ
 求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告前段ハ其理由ナキモノトシ之
 ナ棄却シ後段ハ適當ノ理由アルモノト認メ原裁判言渡ヲ破毀シタル

モノニ係ル

其理由ニ曰ク上告第一段ハ死者ニ所有權又ハ保管權ヲ有スルノ理ナケレハ其公債證書ハ養嗣子ノ繼襲スヘキモノナリ果シテ然レハ被告ハ其承諾ヲ得テ専用シタルモノニシテ竊取ニアラスト論告スレ凡ソ竊盜罪ハ其財産カ竊取者ノ所有ニ係ルノ外ハ何人ノ所有タルヲ問ハス之ヲ竊取シタル片ハ皆竊盜罪ヲ構成スヘキモノナリ而シテ養嗣子ト雖モ贈遺又ハ其他ノ事情ニ依リ繼襲スヘキ財産アリ繼襲スヘカラサル財産アリ故ニ其財産相續決定ノキニ至ルマテハ假令養嗣子ナルニモセヨ直チニ其財産ヲ處置スルヲ得サルモノトス而シテ原裁判所カ認ムル處ノ事實ニ依レハ被告カ之ヲ竊取シタルハ信定カ死亡ノ翌日ニシテ養嗣子カ未タ之ヲ相續スヘキヤ否ヤノ決定アラサルモノナレハ直チニ養嗣子ノ財産ト見做スヲ得サルノミナラス原裁判所ニ於テ被告カ其養嗣子ノ承認ヲ得テ専用シタルモノト認メタルニアラ

ス然ルヲ以テ被告ハ養嗣子ノ承認ヲ得タルモノニシテ竊取ニアラストノ上告ハ不相立仍テ該上告點ハ治罪法第四百二十七條ニ照シ棄却スト雖トモ上告第二段論旨ノ如ク原控訴裁判所ハ始審ニ於テ認定シタル事實即チ被告カ竊取シタル公債證書ハ貳千七百五拾圓トアルヲ否トシ三千貳百五拾圓ナリト認定シナカラ之ヲ取消シ更ニ裁判ヲ爲サスシテ始審裁判ヲ認可スト言渡シタルハ越權ノ處分ナリトス

○竊盜ノ件 明治十九年
第四百四十六號

同居人ニ抵當トシテ渡シタル物品ヲ竊カニ取出シ其家ヲ立出テシモノハ刑法第三百十一條ノ罪ヲ組成スルヤ否

攝津國神戸區築町四丁目四拾七番地原イト方同居平民藝妓蘇阿蘇タカニ對スル被告事件

初審 神戸輕罪裁判所

本件ノ事實被告阿蘇タカハ兼テ原イト方ニ同居シ明治十七年十二月

二十五日金子入用ノ爲メ自己カ所有品則淨瑠璃三味線衣類等八點ヲ
 抵當トシ尙同居人中野太兵衛ヨリ金二十八圓貳拾四錢ヲ借用シ該物
 品ハ皆ナ右太兵衛へ相渡置キタルニ明治十八年七月下旬日不詳前記
 太兵衛ニ於テ箆筒ニ入レアリシ自己カ抵當ノ爲メ相渡シアル品ノ内
 縮緬長襦袢御召縮緬綿入黒縮緬羽織縞縮緬半纏ノ四點ヲ竊ニ取出シ
 該家ヲ立出タルモノニテ明治十九年一月廿五月初審裁判所ハ刑法第
 三百七十一條同第三百六十六條同第三百七十六條ニ該ルモノト判定
 シ三月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付シ裁判確定ノ後大審院檢察長
 ハ非常上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ原裁判所ハ「タカ」ニ對シ適用シタル刑
 法第三百七十一條ハ自己ノ所有物ト雖ハ典物トシテ他人ニ交付シ云
 ヲトアリテ其典物ヲ必要トスルハ辯ヲ俟タス然ルニ本件タカニ於テ
 竊取ノ罪アリト認メラレシハ抵當ト爲シタル物件ニシテ典物ト爲シ
 タルニアラサルヲハ原裁判所ノ明認スル所ナリ然ルヲ該第三百七十

擬セシハ不當ニシテ法律ニ於テ罰スヘキ正條ナキ所爲ニ對シ刑ノ言
 渡ヲ爲シタルモノトス因テ非常上告ニ及フト云フニ在リ刑事局ニ於
 テハ非常上告論旨ニ基キ治罪法第四百三十五條第二項ニ照シ原裁判
 ヲ破毀シ直チニ被告阿蘇タカニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シ治罪法第三百
 五十八條ニ照シ放免シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク非常上告論旨ノ如ク刑法第三百七十一條前半ノ罪ヲ組
 成センニハ自己ノ所有物ナルト之ヲ典物ニ爲シタルト之ヲ竊取シタ
 ルトノ三條件ヲ必要トス而シテ原判文ヲ查閱スルニ金子入用ノ爲メ
 自己カ所有品則チ淨瑠璃三味線衣類等八點ヲ抵當トシ云々金拾八圓
 貳拾四錢ヲ借用シト明認シアリ然ルヲ以テ假令該品ヲ他人ニ渡シ置
 キ之ヲ竊カニ取出スモ刑法第三百七十一條ノ罪ヲ組成セサルモノト
 ス何トナレハ抵當タルモノハ典物ト異ニシテ其品ヲ債主ニ引渡スト
 ヲ必用トセサルモノナレハ之ヲ取出スモ決シテ其抵當ノ權ヲ害スヘ

一條ニ問キモノニアラス故ニ犯罪組成ノ要件タル一ヲ闕ケハナリ然ルチ原裁判所カ其抵當タル一ヲ認メナカラ之ヲ刑法第三百七十一條ニ問擬シタルハ非常上告論旨ノ如ク法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノニシテ破毀ノ原由アルモノトス

○竊盜採食ノ件明治十九年
第三百三十四號

八ノ田園ニ入り菜菓ヲ竊取シ之ヲ他所ニ持行キ喫食シタルモノハ刑法第三百七十二條ニ問フヘキヤ將タ違輕罪ナルヤ

栃木縣下野國芳賀郡南中村平民田上庄七同縣同郡同村平民木村廣作同縣同郡同村平民飯山兼吉ニ對スル被告事件

初審 宇都宮輕罪裁判所

本件ノ事實被告田上庄七木村廣作飯山兼吉ハ山田新十郎所有畑地ニ作リアル西瓜ヲ竊取シ之ヲ畑地ヨリ四五丁ヲ距ル川原ニ持行キ喫食シタルモノニテ年月日初審裁判所ハ刑法第三百七十二條第三百七十

六條ニ該當スルモノト判定シ處分ヲ爲シ該裁判確定ノ後大審院檢察長ハ他人ノ田園ニ於テ菜菓ヲ採食シタル者ハ單ニ其ノ菜食ニ止ル時ハ其採取シタル場所ヲ離ルハト否ヲ問ハス刑法第四百二十九條ニ依リ處分スヘキモノナルニ原裁判所カ前掲ノ如ク言渡シタルハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル違法ノ裁判ナリト論シ非常上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ非常上告ニ基キ治罪法第四百三十五條末項ニ依リ原裁判言渡ヲ破毀シ原裁判所ニ於テ認メタル事實ニ據ルニ被告等カ所爲ハ刑法第四百二十九條左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス其十六項ニ他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者トアルニ該ル被告兼吉ハ犯時十六歲以上二十歲未滿ナルモ違警罪ナルヲ以テ刑法第八十三條ニ依リ其罪ヲ宥恕セズ被告庄七廣作兼吉ヲ各四十錢ノ科料ニ處スト言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本案被告等カ所爲タルヤ他人所有ノ畑地ニ作リアル西瓜ヲ採リ該畑ヨリ四五丁ヲ距ル川原ニ持行キ喫食シタルモノニシテ各自宅ニ持歸リタル等ノ行爲ニ非ラサルヲハ明カナリ然レハ其採取シタル畑地ヨリ僅カ四五丁ヲ距ル川原ニ持行キ喫食シタルハ該畑地ニ於テ採食シタルト同一視シ刑法第四百二十九條ヲ適用スヘキモノナルニ原裁判茲ニ出テス刑法第三百七十二條同第三百七十六條ニ依リ處斷シタルハ本院檢察長カ非常上告論旨ノ如ク相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノトス

○竊盜ノ件 明治十九年
第四百七十八號

官林ヲ盜伐シ荷作リノ際差押ヘラレ其目的ヲ遂ケサルモノハ未遂犯ヲ以テ論斷スヘキヤ否

福岡縣筑前國遠賀郡香月村平民藤村孫吉ニ對スル被告事件

初審 福岡輕罪裁判所

本件ノ事實被告藤村孫吉ハ明治十九年四月廿六日中間村宇船越ノ官林ニ於テ竊盜セント松及柏ヲ伐倒シ之ヲ小切り荷作リヲ爲ス際差押ヘラレタルモノニテ明治十九年四月卅日初審裁判所ハ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ヲ適用シ未タ遂ケサルヲ以テ同法第三百七十五條第百十二條ニ依リ一等ヲ減シ重禁錮一月十五日ニ處シ監視六月ニ付ス但シ犯罪ノ用ニ供シタル鋸及手斧ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ現在スル贓品ハ福岡山林事務所ヘ還付スト言渡シタルニ檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ凡ソ山林盜伐ノ所爲ノ如キハ其樹木ヲ伐倒シタルヲ以テ鋸取ハ既ニ終リタリトセサルヲ得ス何トナレハ之ヲ伐倒スト同時ニ幹根其所ヲ殊ニシ再ヒ回復ヲ望ム得ヘカヲサレハナリ之ヲ小伐リ之ヲ荷造リスルカ如キハ贓物運搬ヲ容易ナラシムルカ爲メニシテ犯後ノ所爲ニ過キサレハナリ今本案ノ如キモ被告カ取押ヘラレタルハ既ニ竊取ヲ終リタル後贓

物ヲ運搬セントスル際ニアリテ竊盜罪ノ既遂タルコト明シカナリ然ルニ裁判官ハ該事實ヲ認メナカラ未遂犯ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ刑事局ニ於テハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ト認メ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ニ相當スルヲ以テ其範圍内ニ於テ被告藤村孫吉ヲ重禁錮六月ニ付シ但書ハ原裁判ノ通りタルヘシト是認シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク被告人ハ明治十九年四月廿六日中間村字船越ノ官林ニ於テ竊取セント松及ヒ柏ヲ伐倒シ之ヲ小切り荷作りヲ爲ス際差押ヘラレタルモノナリト在リテ既ニ之ヲ伐倒シ之ヲ小切り荷作りヲ爲ス等ノ事實ヲ認メタル上ハ上告論旨ノ如ク竊取ヲ遂ケタル樹木運搬ノ豫備ヲ爲ス者ト云フヘクシテ竊盜既遂犯タルヤ疑ヲ容ルヘカラス然ルニ原裁判所ニ於テ未遂犯ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス

○竊盜ノ件明治三十八年三月十七號

官林ニ入り樹木伐採ノ際取押ヘラレタルモノハ盜伐未遂ヲ以テ論スヘキヤ將々既遂ノ刑ヲ科スヘキヤ

福岡縣筑前國遠賀郡蘆屋村平民安高與九郎ニ對スル被告事件
初審 小倉支廳

本件ノ事實被告安高與九郎ハ外豊名ノ者ト申合セ明治十八年十月十九日蘆屋村字大城ノ官林ニ於テ凡ソ九寸週リノ松木四本ヲ鋸ヲ以テ伐採シ之ヲ竊取セントスル所ヲ巡查ニ取押ヘラレタルモノニテ明治十八年十月廿二日初審廳ハ官林盜伐未遂ノ罪アリト判定シ刑法第三百七十三條同第三百七十二條同第三百七十六條同第三百七十五條同第三百十二條ニ依照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮一月ニ處シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ

抑他人ノ山林ニ忍入り竹木盜伐スル如キハ假令其竹木ヲ山林外ニ移轉セスト雖也之ヲ伐倒シタル時ニ在テハ業已ニ竊盜ノ所爲終レルモノニシテ之ヲ移轉スル如キハ事後贓品ヲ運搬スル所爲ニ過キス故ニ被告カ他ノ者ト共々蘆屋村字大城官林ニ忍入り鋸ヲ以テ松木ヲ伐倒シ尙ホ之ヲ運搬セントスルノ際取押ヘラレタルモノナレハ竊取既遂ノ事實タルニ原裁判官モ之ヲ認メナカラ法律適用ニ至リ未タ遂ケサルモノヲ罰スル刑ヲ科シタルハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告ハ其理由ナキモノトシ之ヲ棄却シ原裁判ヲ是認シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告ノ理由トスル處被告カ松木ヲ伐倒シ尙ホ之ヲ運搬セントスル際取押ヘラレタルモノト論スレハ原判文ヲ觀ルニ被告ハ外壹名ト申合セ蘆屋村字大城官林ニ於テ云々松木四本ヲ鋸ヲ以テ伐採シ之ヲ竊取セントスル際云々ト揭示シ其運搬セントスル事實ハ之

ヲ認メス抑刑法第三百七十三條ノ罪ハ竊取ノ事實ヲ具備シテ已遂ト爲ス可キモノニシテ止タ伐採セシト云フヲ以テ直チニ已遂犯ト速斷スルヲ得ヌ何トナレハ其伐採トハ即チ竊取ノ手段中ニ過キスシテ毫モ事後ノ目的ニ着手シタリト云フ形贖ナケレハナリ左スレハ原裁判所カ被告ノ所爲ニ對シ未遂ノ刑ヲ科シタルハ相當ノ處分ニシテ擬律ヲ誤リタル裁判ニ非ルナリ到底上告ノ旨趣ハ法律ノ解釋ニ付其意見ヲ異ニスルニ止マリ之ヲ以テ破毀ノ原由ト爲スコトヲ得サルモノトス

○山林盜伐ノ件 明治十八年
二月二十二日號

共有物ノ一部ヲ賣却シタルモノハ盜意ノ有無ニ關セス直チニ竊盜罪ヲ以テ處斷スヘキヤ否

滋賀縣近江國愛知郡蚊野外村住居平民農業高橋彌右衛門ニ對スル被告事件

初審 彦根 支廳

本件ノ事實被告高橋彌右衛門ハ高橋傳六外十一名ト共有ナル近江國
 愛知郡岐野外村字金剛寺ト稱スル林地ニ於テ明治十八年三月廿日頃
 共有者ニ非サル高橋新助外一名ト共ニ該地ノ松木五本ヲ伐採シ之ヲ
 賣拂ヒ新助宅ニ於テ酒食ノ費ニ充シモノニテ明治十八年六月廿五日
 初審裁判所ハ該樹木ハ被告ノ共有ニ係ルヲ以テ其共有者等ニ相談ナ
 ク之ヲ伐採シタリトテ人ノ所有物ヲ竊取シタリト云フヲ得ヌ其所爲
 法律上罪トナラサルモノト判定シ刑法第二條ニ照シ無罪證據トシテ
 押收シタル鏝ハ被告ニ還付スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官ハ上告
 ナ爲シタリ其要旨ハ凡ソ共有財產タルヘキモノ、性質ヲ概言スレハ
 多クハ或ル幾部ハ某ニ屬シ又或ル部分ハ某ニ屬スト區別アルモノニ
 アラス其所有權ハ各自互ニ共有財產全部ニ普及スルモノナリ故ニ之
 ヲ盜ムモ盜罪ニアラサルニ似タリト雖モ是レ偏見タルヲ免レスト云
 フヘシ已ニ所有權ノ全部ニ普及スヘキモノトセハ他ノ共有者ノ權利

モ亦其全部ニ普及スヘキモノタルヤ論ヲ待タス然ラハ縱令共有者人々
 リト雖モ其一部ヲ盜マハ隨テ他ノ共有者ノ所有物ヲ竊取シ
 併テ其所有權利ヲ侵害シタルモノナルヲ以テ人ノ所有物ヲ竊取シタ
 ルモノト云ハサルヲ得ヌ焉ソ盜罪ニアラスト云フヲ得ンヤ本案被
 告カ共有林地ニ於テ樹木ヲ盜伐シタル如キハ宜シク刑法第三百七十
 三條同第三百七十二條第三百七十六條ヲ適用シ尙ホ犯罪ノ用ニ供シ
 タル被告所有ノ鏝ヲ沒收セサルヘカラス然ルニ原裁判玆ニ出ス刑法
 第二條ニ因リ無罪ノ判決ヲ下シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ
 刑事局ニ於テハ原裁判ハ事實理由不備ノモノト認メ治罪法第四百二
 十八條ノ規則ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク凡ソ共有物ナルモノハ各共有者共ニ其全部ニ付平等ノ
 權利ヲ有スルモノナレハ苟モ特約ナキ以上ハ他ノ承諾ヲ經スシテ擅
 ニ其物件ヲ處分スルヲ得サルヲ論テ竣タヌ何トナレハ他ノ共有者カ

有スル權利ヲ侵害スルヲ以テナリ然ラハ縱令ヒ共有者ノ一人ト雖モ若シ盜ムノ意ニテ其物件ヲ竊取スル時ハ則チ上告論旨ノ如ク竊盜罪ヲ免ル能ハサルニ付本件ノ如キハ盜意有無ノ點ヲ審明スルニ必要ナルニ原判文ニハ唯前記ノ如ク掲載アルノミニテ盜意有無ノ判示ナキカ故ニ未タ輒ク罪ノ有無ヲ臆別シ難ク隨テ法律適用ノ當否如何ヲ監査スルニ由ナシ是則事實理由不備ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九項ニ適スル破毀ノ原由アルモノトス

○竊盜ノ件明治十八年三月三十一日

人ノ所有ニ係ル樹木ヲ無謀ニテ伐採シ後之ヲ所有主ニ告ケタルモノハ直チニ刑法第三百七十三條ヲ適用シ處分スヘキヤ否
京都府丹波國南桑田郡北ノ庄村平民農業俣野市兵衛全府全國全郡全村平民農業俣野市兵衛養父俣野藤吉ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

本件ノ事實ハ明治十八年七月三日初審裁判所ニ於テ被告俣野市兵衛俣野藤吉兩名ハ明治十八年四月日分ラス居村組合山字道徳ニ於テ普請ニ用ル棟木壹本伐採スル爲メ市兵衛ハ鋸鎌ヲ携ヘ藤吉ハ鉈ヲ持チ自宅立出シニ途中ニ於テ降雨甚敷ヨリ先ニ同村俣野佐平次雇人運谷政吉カ佐平次所有山字袋ヶ谷ニ山稼キナス際普請ニ用ユル棟木壹本貫ヒ受度頼ミ入レシニ政吉ハ雇主佐平次ニ其旨申置ト云ヒシヲ以テ佐平次ハ承諾ナルヤ否ハ返事ナキ故知レサルモ後ニテ伐採セシヨリ斷リ出レハ宜シクト被告兩人申談シ佐平次所有山字袋ヶ谷ニ於テ元口壹尺四五寸廻リノ松木壹本兩人ニテ伐採シ自宅ニ持歸リ棟木ニ使用セシ未俣野元次郎ヲ以テ佐平次方ヘ松木ヲ貫ヒ受ケ度旨頼出シニ佐平次ハ雇人政吉ヨリ何等ノイモ聞居ラサルヨリ今ヨリ伐採スルヤト尋ヲ受ケ因テ既ニ伐採セシコトヲ申明シ斷リ置キタルモノト判定シ刑法第三百七十三條全第三百七十六條第四百四條ニ照依シ重禁錮一

月十五日ニ處シ監視ニ付スト各自ニ言渡シタル裁判ニ服セス被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ當初被告等ハ竊取スルノ意ニ出テシ者ニアラサルヤ炳然タリ抑竊盜罪ハ三個ノ原素相集テ構造シ若シ其一個ヲ欠クニ於テハ竊盜罪ヲ組成スルコトナシ然ルニ原裁判所ハ犯罪ニ必要ナル惡意ノ有無ヲ審究セス刑法第三百七十三條ヲ適用シタルハ不法ナリ又一歩ヲ讓リ被告カ竊取シタルモノト假定スルモ事發見前佐平次ニ首服シタルニ減等セサルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル破毀ノ原由アル不法ノ裁判ト認メ同第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ刑法第二條ヲ適用シ被告侯野市兵衛侯野藤吉ニ對シ無罪且放免ノ宣告ヲ爲シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第三百七十三條ノ罪ハ惡意ニ出テ他人ノ竹木鑛物其他ノ產物ヲ竊取シタル事實具備スルヲ以テ組成スルヤ勿論ナレハ

其事實完備セサルニ於テハ固ヨリ以テ該法章ニ問擬スル限リニ非ストス今原判文ヲ監査スルニ略前侯野佐平次雇人遲谷政吉カ佐平次所有山ニ於テ山稼キナス際普請ニ用ユル棟木壹本貫ヒ受度段頼ミ入レシニ政吉ハ雇主佐平次ニ其旨申置ト云ヒシヲ以テ佐平次ハ承諾ナルヤ否ハ返事ナキ故後ニテ伐採セシコトヲ斷リ出レハ宜シト被告兩人申談シ云々松木壹本兩人ニテ伐採シ自宅ニ持歸リ棟木ニ使用セシ未侯野元次郎ヲ以テ佐平次方ハ松木ヲ貫ヒ受ケ度旨頼出シニ云々ト掲載シアリテ既ニ原裁判所カ判定セシ事實ニ據レハ被告等カ所爲タル毫モ惡意ニ出テ他人ノ所有物ヲ竊取シタル情況ノ視ルヘキモノナキノミナラス隨テ右法律上ノ竊盜罪ヲ組成セサルヤ復タ更ニ明確ナリトス然ルニ原判定茲ニ出テス刑法第三百七十三條ヲ適用シ處斷シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ相當シ破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリトス已ニ此點ヲ以テ破毀ヲ認メタレハ他ノ上告趣旨ニ對シ茲ニ一々

辯明ヲ與フルヲ要セス

○竊盜ノ件明治十九年
第五百七十六號

竊盜ノ爲メ窓口ヨリ忍入りタルモノハ刑法第三百六十六條ニ該當スルヤ將々刑法第三百六十八條第三百六十七條ニ問フヘキヤ
愛媛縣讚岐國阿野郡福家村平民綿打業吉川勘六ニ對スル被告事件

初審 高 松 支 廳

本件ノ事實被告吉川勘六ハ明治十九年一月廿三日夜竊盜ヲ爲サント谷本儀三郎宅締リナキ窓口ヨリ忍入り内庭ノ隅ニ潜ミ居ルヲ家主儀三郎ニ認メヲレ取押ヘラレ且前ニ竊盜罪ヲ犯シ初審廳ニ於テ處刑ヲ受ケタルモノニテ明治十九年二月四日初審廳ハ刑法第三百六十六條ニ該當シ未遂犯ニ付同第三百七十五條第百十二條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ又再犯ニ付同第九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘ仍ホ第三百七十六

條ニ依リ重禁錮四月ニ處シ監視六月ニ付ス但シ窓ヲ開ク爲メ持行キタル鑰及剃刀ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收スト言渡シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ谷本儀三郎方居宅ヘ忍ヒ入りタル該家東手ノ「トウミ」口ナルモノハ地上ヨリ距ル「二尺餘」ニシテ方一尺五寸常ニ落戸ヲ設ケアリ其効用ヲ探究スルニ即チ「トウミ」ト云ヘル器械ニテ穀類ヲサヒル本ノ時其摺糠ヲ出ス口ナリ之ヲ云ヒ換ユレハ一個ノ小窓ニ過キス夫レ一個ノ小窓トセハ其形チノ如何ヲ問ハス人ノ出入スル性質ノモノニ非ス左レハ之ヨリ忍入りタル片ハ取リモ直サス踰越シテ忍ヒ入りタルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ刑法第三百六十八條ニ所謂踰越トハ人ノ出入スル爲メニ設ケタル口ニアラサル所ヨリ侵入シタルモノハ上ヨリスルモ下ヨリスルモ等シク踰越ト云フヘケレハナリ果シテ然ラハ本件ノ如キハ刑法第三百六十八條ノ制裁ヲ受ケサルモノナルニ尋常ノ竊盜罪ヲ以テ處斷セ

シハ擬律ヲ錯誤シタル不法ノ裁判ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ
 原裁判ハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ト認メ治罪法第四百二十九條ニ從
 ヒ之ヲ破毀シテ刑法第三百六十八條第三百六十七條ヲ適用シ未遂犯
 ニ付同第三百七十五條同第一百十二條ニ照シ二等ヲ減シ再犯ニ付同第
 九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ被告吉川勘六ヲ重禁錮四月ニ處シ
 仍ホ同第三百七十六條ニ依リ監視六月ニ付シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク原判文ニ據レハ被告ハ窓口ヨリ忍入りタルモノナリ夫
 レ窓ナル者ハ通常屋上若クハ壁間ニ開設スルモノナレハ其窓下ニハ
 多少ノ牆壁アル推テ知ルヘキナリ果シテ然ラハ被告ハ右ノ如ク窓口
 ヨリ忍入りタルモノナレハ其多少ノ牆壁ヲ踰越シタルヤ亦タ論ヲ俟
 タサルモノトス然ルニ原裁判所ハ被告カ所爲ニ擬スルニ刑法第三百
 六十六條ヲ以テシタルハ歸スル所上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナリト
 ス

強盜罪ニ關ス

○強盜ノ件明治十八年八月十八號

兇器ヲ携帯シ戶外ヨリ差込ミ脅迫シタルニ被害者ハ狼狽シテ該
 兇器ヲ握リ創傷ヲ受ケ戸ヲ放チタルニ因リ内ニ入り尙ホ金錢ヲ
 強取セン爲メ被害者ヲ脅迫シタル場合ニ於テハ強盜傷人罪ハ成
 立セサルヤ否
 破監逃走ノ爲メ獄舎ノ破壊ニ着手シタルモノハ逃走未遂罪ヲ組
 成スルヤ否
 千葉縣下總國千葉郡谷津村平民農業金子清五郎同郡今井村平民
 魚商澤見金藏茨城縣常陸國東茨城郡大戸村平民無籍清水新太郎
 ニ對スル被告事件

初審 千葉重罪裁判所

本件ノ事實第一被告金子清五郎ハ明治十六年五月二日千葉輕罪裁判

所ニ於テ竊盜罪ニ依リ重禁錮三年監視一年ニ處セラレ千葉縣貝淵監獄署附屬富津村外役場ニ於テ服役中明治十六年八月十七日同囚杉山彌一川村龜二郎津久井松藏等ト共ニ謀リ獄舎床板ヲ放チ床下ニ入り土ヲ穿チ居房第三號厠ノ傍ヲ床下ノ圍ミヲ破壞シ以テ杉山彌一外二人ト共ニ逃走シ第二被告清五郎ハ明治十六年十二月九日夜下總國下埴生郡成田驛成田警察分署ニ忍入り巡查某ノサーベルヲ竊取シ第三清五郎ハ明治十六年十二月十日夜前段盜取シタルサーベルヲ携帶シ上總國武射郡横芝驛伊藤倉吉方へ押入り寢所ノ戸ヲ開カントスルチ倉吉カ内ニ在テ押入居ルヨリ被告清五郎ハ戸ノ隙間ヨリサーベルヲ差込ミ以テ脅迫シタル處倉吉ハ狼狽ノ餘リ左手ニテ該サーベルヲ握リ掌中ニ創傷ヲ受ケ驚テ戸ヲ放チタルニ因リ被告清五郎ハ其戸ヲ開キ寢所ニ入り金錢ヲ強取センカ爲メ尙ホ倉吉ヲ脅迫シ居ルニ際シ隣家内田安右衛門等カ戶外へ馳來リシニ因リ被告清五郎ハ財物ヲ強取

シ得スシテ逃走シ第四被告清五郎ハ又明治十六年十二月十二日夜該サーベルヲ携帶シ上總國山邊郡東金町吳服商石崎三左衛門方へ押入り金錢ヲ差出スヘク聲ヲ立レハ斬殺スヘクト脅迫シ居ルニ際シ三左衛門妻「サト」カ戶外ニ馳出シ大聲ヲ發シタルニ因リ被告清五郎ハ財物ヲ強取シ得スシテ逃走シタリ第五被告清五郎ハ該サーベルヲ携帶シ前同夜同郡田中村島田吉太郎方へ押入り金錢ヲ差出スヘクト脅迫シ以テ金一圓餘ヲ強取シ第六被告清五郎澤見金藏清水新太郎ハ各犯罪被告トナリ未決中八日市場監獄署ニ在監シ互ニ破監逃走セント通謀シ已ニ明治十八年一月七日頃ヨリ釘又ハ鐵片ヲ用キ居房裏ノ方格子下ヲ縱一寸二分横三寸深サ一寸五分許ヲ破壞シタルモ明治十八年一月十五日事發覺シタルカ爲メ未タ脱監シ得ス而シテ澤見金藏ハ明治十八年四月八日無期徒刑ニ處セラレ清水新太郎ハ明治十八年四月廿九日重禁錮四年監視二年ニ處セラレタル以上ノ證據ハ充分ナルモノ

ト判定シ明治十八年八月廿四日初審裁判所ハ第一被告清五郎カ獄舎ヲ毀壞シテ逃走シタル所爲ハ刑法第四百二十二條第二項第四百十五條第二清五郎カ竊盜ノ所爲ハ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ第三清五郎カ持兇器強盜未遂被害者ノ創傷シタルハ清五郎カ直接ノ所爲ニ出ルニ非サルヲ以テ強盜人ヲ傷シタルモノト認ムヘカラストシ刑法第三百七十八條第三百七十九條第一百二十二條ニ第四清五郎カ持兇器強盜未遂ノ所爲ハ前第三ト同條ニ第五清五郎カ持兇器強盜ノ所爲ハ刑法第三百七十九條第六十七條第二十二條第二項ニ第六清五郎金藏新太郎カ未決囚ト爲リ在監中互ニ通謀シ居房ノ格子下ヲ破壞シタルハ刑法第四百十四條第四百十二條第二項第四百十五條第四百十九條第一百二十二條ニ依リ清五郎ハ數罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ第五ノ罪ヲ以テ論シ重懲役十一年ニ處ス金藏新太郎ハ已ニ判決ヲ經タル原犯ノ罪ト第六ノ犯罪トヲ以テ二罪俱發ト爲シ刑法

第百條ニ照シ一ノ重キ原犯ノ罪ヲ以テ論シ第六ノ犯罪ハ其罪ヲ問ハサルモノトス但清五郎ハ先ツ本刑ヲ執行シ終リタル後前判ノ殘刑期及ヒ附加刑ヲ執行スヘキモノトスト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原判文第三ノ事實被害者倉吉カ負傷ハ偶爾ノ狼狽ニ招キシモノニシテ被告清五郎ノ所爲ニ關セストセンカ深夜ニ兇器ヲ携ヘ入ノ寢所ニ闖入シ内ヨリ戸ヲ押ユルモ尙ホ白刃ヲ戸ノ隙間ヨリ差込ムカ如キ暴行ニ達ヒ其身体生命ノ危險實ニ迫レリト謂フヘシ是時ニ當リ倉吉ハ假令狼狽シタルニモセヨ其白刃ヲ握リタル其身ニ取リテノ正當防禦ニシテ決シテ自ヲ求ムルノ災害ト謂フヘカラス則チ倉吉ノ負傷ハ一ニ被告カ暴行ヨリ被フリシ所ノ災害ナリ元來強盜人ヲ傷シタル如キハ暴行ノ惡結果ト謂フヘシ故ニ若シ暴行ノ所爲ナシト謂ハ、其結果モ亦アルヘキ理由ナシト雖モ今被告カ白刃ヲ戸ノ隙間ヨリ出シタル如キハ其心中假令ヒ人ヲ殺傷スルノ意ナシ

ト爲スモ其所爲暴行ニ非ヌシテ何ソ已ニ此暴行アリ而テ其刃ニ觸レテ傷セシモノアルニ當リ其負傷ハ被害者ノ狼狽ニ出ルモノニシテ被告カ所爲若クハ意思ニ關スルニアラサルヲ以テ強盜人ヲ傷シタルモノニ非スト爲スカ如キハ理ニ於テ當ラサルノ言ト謂フヘシ故ニ本職ハ此事實ヲ以テ刑法第三百八十條ニ該ル者トノ意見ヲ陳述シタルニ裁判官ノ強盜人ヲ傷シタルモノト認ムヘカラスト爲シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル不法ノ裁判ナリ原判文第六ノ事實被告清五郎金藏新太郎カ破監逃走ノ爲メ破壊ニ着手セシハ相違ナシト雖モ其破壊タル縱壹寸貳分横三寸深サ壹寸五分ト云ヘハ其未タ手指ヲ出スノ空隙タモ穿チ得サリシハ明白ナレハ本件發覺ノ場合ハ専ラ破壊ノ作業中即チ逃走ノ豫備中ニシテ其未タ逃走ニ着手セサリシ場合ナルモ亦明白ニ看得ラルヘシ果シテ然ハ被告三名ノ所爲ハ逃走ノ豫備ニ止ルモノニシテ未タ其罪ヲ構造セサルヲ以テ唯刑法第四百十八

條ニ該ツヘキニ囚徒逃走ノ未遂犯罪ナリトシタルハ是亦治罪法第四百十條第十項ニ相當スル不法ノ裁判ナレハ更ニ相當ノ判決アラント云フニ在リ刑事局ニ於テハ上告後段論旨ヲ適當ノモノト認メ被告清五郎ハ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡中清五郎ニ對スル部分ハ破毀シテ更ニ適當ノ裁判ヲ爲サシムル爲メ其事件ハ之ヲ東京重罪裁判所ニ移シ被告深見金藏清水新太郎ハ同法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判言渡中右兩名ニ對スル部分ハ破毀シテ直ニ被告金藏及ヒ新太郎カ所爲ハ家屋ヲ毀壞シタルモノト認定シ仍テ刑法第四百十七條ニ依リ一月ノ重禁錮貳圓ノ罰金ニ處スヘキ處金藏ハ無期徒刑新太郎ハ重禁錮四年監視二年已ニ判決ヲ經而テ後發ノ罪輕キヲ以テ刑法第二百二條ニ照シ後發ノ罪ハ之ヲ論セサルモノトスト言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告前段ノ論旨ニ付之ヲ審按スルニ原判文第三ノ事實

ハ被告清五郎ハ其戸ヲ開キ寢所ニ入り金錢ヲ強取センカ爲メ尙ホ倉
 吉ヲ脅迫シ居ルニ際シ云云トアリテ此文詞ニ依レハ其寢所ニ押入脅
 迫ヲ加ヘタルハ強盜ヲ爲スノ意思ニ出タルハ蓋シ疑ナキカ如シ然レ
 トモ其前ノ文詞被告金子清五郎ハ明治十六年十二月十日夜前段盜取
 シタルサーベルヲ携帯シ中伊藤倉吉方ヘ押入り寢所ノ戸ヲ開カント
 スルヲ倉吉カ内ニ在テ押入居ルヨリ被告清五郎ハ戸ノ隙間ヨリサー
 ベルヲ差込ミ以テ脅シタル處倉吉ハ狼狽ノ餘リ左手ニテ該サーベル
 ヲ握リ掌中ニ創傷ヲ受ケ云々トアリテ其押入り脅迫ヲ加ヘタルハ何
 等ノ意思アリテ然ル乎強盜ヲ行ハンカ爲メナル乎將タ他ノ意思アル
 カ爲メ乎若シ他ノ意思アルカ爲メトセン乎其強盜ハ事後ノ所爲ニ係
 レハ被害者ヲ創傷シタル所爲ハ別ニ其罪ヲ論セサルヘカラサルカ如
 ク若シ強盜ノ意思ヲ以テシタルモノトセン乎強盜傷人ノ律ヲ適用ス
 ルニハ事實ノ理由ハ不備ナリト謂ハサルヘカラス到底事實ノ覆審ヲ

爲スニ非サレハ判定ノ當否ヲ監査スル能ハス擬律錯誤ナリトノ上告
 論旨ハ妥當ナラスト雖モ事實理由ヲ明示セサル裁判ニシテ破毀ノ原
 由アルモノトス又被告清五郎金藏新太郎カ第六ノ所爲即チ破監逃走
 ノ爲メ獄舎ノ破壊ニ着手シタルハ逃走豫備中ノ所爲タルニ過スシテ
 已ニ逃走ニ着手シタルモノト謂フヲ得サレハ此所爲ハ只刑法第四百
 十七條ノ罪ヲ組成スルニ止リ囚徒逃走未遂ノ罪ハ成立セス然ルニ原
 裁判官ノ刑法第四百十四條第四百十二條第二項第四百十五條第四百
 十九條第四百十二條等ヲ適用シタルハ上告後段論旨ノ如ク擬律錯誤タ
 ルヲ免レス

放火罪ニ關ス

○放火ノ件明治十八年
第七百卅一號

饑餓ニ迫リ囚ト爲リ官ノ給養ヲ受ケン爲メ家屋ニ火ヲ放チタル
 モノハ刑法第七十五條ニ依リ其罪ヲ論セサルヤ否

又積雪ノ爲メ潰レタル廢屋ニ火ヲ放チタルモノハ刑法第四百六
條ニ問フヘキヤ將タ同法第四百四條ヲ適用スヘキヤ

岩手縣陸中國南岩手郡東中野村五十二番地平民無職業吉田定五
郎ニ對スル被告事件

初審 秋田重罪裁判所

本件ノ事實ハ明治十八年一月廿四日初審裁判所ニ於テ被告吉田定五
郎ハ幼年ニシテ兩親ヲ失ヒ孤獨トナリ明治元年ヨリ乞食シテ處々流
浪シ四五年以前ヨリ微毒症ニ罹リ全身潰瘍ヲ生シ就中左足ハ腐爛脫
肉シテ歩行成リ難ク明治十七年五月ヨリ秋田縣羽後國平鹿郡大屋新
町村大谷神社ニ露宿シ日々人ニ救助ヲ乞ヒ僅ニ一命ヲ保續シ來リシ
モ病患漸次増長シ人ノ來テ投與スルニアラサレハ食ヲ得ル能ハス(或
兩三日全ク食ヲ
絶チシトアリ)殆ト餓死セントスルニ至リ他ニ食ヲ求ルノ途ナク爰
ニ於テ空シク餓死センヨリ寧ロ惡事ヲ爲シ繫獄ノ身トナリ官ノ給與

ニ因テ一命ヲ保タント明治十七年九月十二日午前第一時頃右神社ニ
隣レル同村廿一番地神原熊治所有ノ已ニ潰頽セル廢屋ニ火ヲ放チ燒
燬シ而シテ其翌十三日偶同村蛭川乙松ナル者該社ニ來レルヲ以テ右
放火シタル顛末ヲ告ケ官ニ申告セシメテ依頼シタルモノト事實ヲ判
定シ被告カ所爲ハ内部ノ強制ニ因リ其意ニアラサルノ所爲ナルヲ以
テ刑法第七十五條第一項ニ依リ其罪ヲ論セス且放免スト言渡シタル
裁判ニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ノ意思及ヒ所爲ハ
糊口ニ差支ユルヨリ官ノ食物ヲ食ラントスル目的ヨリ遂ニ潰家ニ火
ヲ放テ燒燬シタル事實ナレハ刑法第四百六條第四百八條ノ制裁ヲ受
ケヘキ者ナルニ同法第七十五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ト謂ハサ
ルヲ得ス抑刑法第七十五條ヲ適用スル場合ハ外部ノ強制及ヒ急遽ニ
シテ他ニ求ムル道ナク且直接ノ犯罪ニ限ルモノニシテ本件ノ如キ内
部ニ關シ且間接ノ犯罪ニ適用スヘキモノニ非ス若シ之ヲシテ罪ヲ論

セサル時ハ飢者食ヲ欲シテ人ヲ殺シ金ヲ奪ヒ食物ヲ買フ者モ罰スルヲ得サルニ至リ大ニ社會ノ畏懼念ヲ惹起シ安堵スル能ハサルヘク法律ハ安寧ヲ維持スルノ趣旨ニ背馳スルヲ信ス仍テ破毀ヲ求ムル爲メ上告スト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ擬律ノ錯誤ニ出テ檢察官ノ上告モ亦其當ヲ得サルモノト認メ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ原裁判所カ認定シタル事實ニ依レハ被告カ所爲ハ火ヲ放テ他ノ廢屋ヲ燒燬シタルモノト確認ス因テ刑法第四百四條ニ依リ重懲役ニ處スヘキ處事發覺前自首スルヲ以テ刑法第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ被告吉田定五郎ヲ輕懲役六年ニ處スト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第七十五條ニ所謂抗拒スヘカラサル強制ニ遇ヒ云々トハ内部ト外部トヲ論セス強制ヲ受ケ之ヲ避ルノ道ヲ選擇スルノ違マナクシテ犯シタル場合ニシテ若シ之ヲ避ルノ道ヲ選擇スルノ違

マアリテ犯シタル場合ハ其意ニ非サルノ所爲ト爲ステ得サルナリ本案原判文上證明シタル事實ニ依レハ前段ニ叙述セルカ如ク被告ハ饑餓身ニ逼迫スト雖モ尙ホ性命保全ノ道ヲ選擇シ放火ヲ爲シ繫獄ノ身ト爲ラントヲ希圖シタリ是ニ因テ之ヲ觀レハ被告ハ事ノ善惡ヲ識別シ所爲ノ結果ヲ較量スルノ自由ヲ有スルモノニシテ其饑餓乃チ強制ハ抗拒スヘカラサル強制ニ非ス而テ放火ノ所爲ニ及フ之ヲ其意ニ非サルノ所爲ト爲ストヲ得ス原裁判官ノ此事實ヲ認メナカラ刑法第七十五條ヲ適用シタルハ則チ擬律錯誤タルヲ免レス然レトモ原檢察官ノ刑法第四百六條ヲ適用スヘントノ論旨ハ其當ヲ得タルモノニ非ス試ニ一件書類ヲ閱スルニ本件家屋ハ積雪ノ爲メ傾頽セシヲ以テ被害者擧族他所ニ立抜キ其儘ニ爲シ置タルモノニシテ傾頽居住ノ用ニ供スル能ハサルモ尙ホ家屋ノ性質ヲ失ハサルヲ明白タリ果テ然ハ之ヲ第四百六條ノ所謂其他ノ物件ト同一視スルヲ得サルハ論ヲ俟タサル

所タリ

四百三十

家屋物品毀壞及動植物ヲ害スル罪ニ關ス

○建物毀壞ノ件明治十九年
第四百七十四號

巡查見張所ノ障子ヲ毀壞シタルモノハ器物ヲ毀壞シタルモノトシ刑法第四百廿一條ヲ適用スヘキヤ否

秋田縣羽後國平鹿郡横手々々町平民僧侶和賀明了ニ對スル被告事件

初審 大 曲 支 廳

本件ノ事實被告和賀明了ハ明治十九年十一月五日雄勝郡湯澤町字新地料理屋某方ニ於テ飲酒酩酊歸宅ノ途中湯澤警察署ノ前ヲ通行シ故意ヲ以テ同署見張所ヘ石ヲ擲チ硝子障子ノ硝子一枚ヲ毀壞シタルモノニテ同十九日初審廳ハ刑法第四百二十一條ニ該當スルモノト認メ罰金三圓ニ處シ又同第四十八條ニ依リ硝子一枚ノ損害金拾五錢ヲ賠

償スヘシトノ宣告ヲ與ヘタルニ檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ被告カ所爲ハ建物ノ一部タル硝子障子ヲ毀壞シタルモノナレハ刑法第四百十七條ヲ適用スヘキニ否セサルハ擬律錯誤ナリ犯罪ノ用ニ供シタル石ハ刑法第四十三條第二項ニ依リ沒收スヘキニ否セサルハ是亦擬律錯誤ナリ又被告カ毀壞シタル硝子障子ハ見張所ノ外部ナルカ内部ナルヤ理由ヲ附セス即チ事實ノ理由ヲ欠キ及ヒ越權ノ處分アル不當ノ裁判ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告論旨ノ內事實ノ理由ヲ欠キタル點ト被告カ犯罪ノ用ニ供シタル石ヲ沒收スヘシトノ點ハ其理由ナキモノト認メ之ヲ棄却シ其他ノ上告論旨ハ適當ノモノトシ原裁判ヲ破毀シ被告カ所爲ハ刑法第四百十七條ニ該當スルモ所犯原諒スヘキモノナルヲ以テ同第八十九條第九十條ニ照シ二等ヲ減シ被告和賀明了ヲ重禁錮十五日罰金貳圓ニ處シタルモノニ係ル

四百三十一

其理由ニ曰ク被告明了ハ云々故意ヲ以テ同署見張所ヘ石ヲ擲チ硝子障子ノ硝子一枚ヲ毀壞シタルモノト認定スト掲記シ該硝子障子ハ見張所ニ密着セル造作タルヲ明断タリ如斯物件ハ其家屋ニ密着スル間ハ即建造物ノ部内タルヲ以テ上告論旨ノ如ク刑法第四百十七條ヲ適用スルヲ當然ナリトス然ルヲ原判決玆ニ出テサルハ所謂擬律錯誤ノ裁判タルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス

○毀棄器物ノ件 明治十九年
第百八十五號

障子ヲ毀壞シタルモノハ家屋ノ一部トシ刑法第四百十七條ヲ適用スヘキヤ否

大分縣日田郡大肥村平民農石井庄藏ニ對スル被告事件

初審 中 津 支 廳

本件ノ事實被告石井庄藏ハ明治十八年十一月廿八日大肥村坂本繁治方ニ於テ金員貸借ノ事ニ付爭論ノ末右繁治方ノ障子ニ枚ヲ毀壞シタ

ルモノニテ同十八年十二月初審廳ハ刑法第四百十七條ヲ適用シ處分スヘキモ酌量スヘキ情狀アルモノトシ同第八十九條同第九十條ニ照シ二等ヲ減シ重禁錮二十日ニ處シ罰金貳圓ヲ附加スト言渡シタルニ檢察官ハ之ヲ不當トシ該障子ハ家屋ニ屬スル器物ニシテ刑法第四百二十一條ニ問擬スヘキモノナリト論シ上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ該上告ヲ適當ノモノト認メ其論旨ニ依リ原裁判ヲ破毀シ被告カ所爲ハ刑法第四百二十一條ニ該ルモ所犯情狀原諒スヘキモノトシ同第八十九條第九十條ノ例ニ照シ同第四百二十一條ノ刑期ニ二等ヲ減シタル範圍内ニ於テ被告石井庄藏ヲ重禁錮十一日ニ處シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク凡戶障子ナルモノハ家屋ニ附着シテ離レサルモノ、如キ其構成ノ一部分ニアラス。只其家屋ニ屬スルモノニシテ一ノ器物ニ過キス果シテ然レハ之ヲ毀壞スルモ刑法第四百十七條ニ問擬ス可ラ

サルヤ明カナリ然ルヲ原裁判所カ之ヲ該條ニ問擬シタルハ上告論旨
ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス

○家屋毀棄ノ件明治十八年
第八百七十七號

人ヲ呼起スカ爲メ板戸等ヲ蹴敲キ毀壞ヲ生セシメタルモノハ直
チニ刑法第四百十七條ニ依リ處分スヘキヤ否

熊本縣下益城郡小川町平民篠田七次郎ニ對スル被告事件

初審 熊本輕罪裁判所

本件ノ事實篠田七次郎ハ兼テ兄篠田藤助ト茶原佐吉同長男茶原茂一
郎トノ間ニ粃及ヒ樅實ノ商賣上ニ付掛合ノ廉アリ明治十七年十月二
十日ノ夜午前第一時頃佐吉方ヘ趣キ外圍ノ板戸ヲ敲キ茂一郎ニ取引
アル旨高聲ニテ呼起スモ佐吉ハ故ラニ其戸鎖ヲ明ケサルヲ以テ下足
ヲ以テ強ク蹴敲キ竟ニ其板戸ノ下部ニ三ヶ所ノ毀壞ヲ生セシメタル
モノニテ明治十八年二月廿日初審廳ハ刑法第四百十八條ニ依リ貳圓

以上貳拾圓以下ノ罰金ニ該ルモ所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第
八十九條第九十條ニ照ラシ本刑ニ二等ヲ減シ其範圍内ニ於テ科料壹
圓ニ處ス證據トシテ差押ヘタル證書類ハ所有主茶原佐吉篠田藤七等
ヘ還付スト言渡シタルニ檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタル其要
旨ハ該事實ニ於ケル刑法第四百十七條ヲ適用スヘキニ原裁判所カ家
屋ニ屬スル牆壁ヲ毀壞シタルモノト誤認シ刑法第四百十八條ヲ適用
シタルハ事實ノ齟齬而已ナラス擬律錯誤ノ裁判ナリト論シ大審院立
會檢事ハ附帶上告ヲ爲シ無罪ノ判決ヲ要求シタルニ刑事局ニ於テハ
其趣旨ニ基キ治罪法第四百廿九條ニ照シ原裁判ヲ破毀シ直チニ被告
篠田七次郎ニ對シ原裁判所カ認ムル所ノ事實ヲ法律ニ照スニ罰スヘ
キ正條ナキヲ以テ其罪ヲ問ハストノ言渡ヲ爲シタルモノニ係ル
其理由ニ曰ク原判文ニ前略商業上ニ付掛合ノ廉アリ明治十七年十二月
二十日夜午前第一時頃佐吉方ヘ立越シ外圍ノ板戸ヲ敲キ茂一郎ニ取

引アル旨高聲ニテ呼起スモ佐吉ニ於テ故ヲニ其戸鎖ヲ明ケサルカ爲
 メニ又下足ヲ以テ強ク蹴敲キ竟ニ右板戸ノ下部ニ當リ三ヶ所ノ毀壞
 ヲ生セシメタル者ト判定ストアルヲ以テ原裁判所カ認ムル所ノ事實
 ハ被告カ商業上掛合ノ廉アルヨリシテ佐吉ヲ呼起スモ之ニ應セサル
 ヲリ尙ホ之ヲ呼起スカ爲メ下足ニテ強ク其板戸ヲ敲キタリシニ因リ
 竟ニ其下部ヲ破壞ニ至ラシメタルモノナリト云フニアリテ附帶上告
 論旨ノ如ク被告カ其敲キタルハ呼起スカ爲ニシテ之ヲ毀壞スルノ意
 思ニアラサルヲ明カナリ然ルヲ以テ其毀壞ハ牆壁ト家屋トニ拘ハラ
 ス共ニ刑法第四百十七條第四百十八條ニ問擬ス人カラサルモノトス
 何トナレハ該兩條ノ罪ヲ組成センニハ孰レモ之ヲ毀壞スルノ意思ト
 之ヲ毀壞シタルトトヲ必要トスルモノナルニ本案ハ之ヲ毀壞スルノ
 意思ヲ闕キタルモノナレハナリ然ルヲ原裁判所カ右ノ事實ヲ刑法第
 四百十八條ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條

第十ニ適スル破毀ノ原由アルモノトス

○毀棄器物ノ件明治十九年
第一千二百號

養子ニシテ養父ノ器物ヲ毀棄シタルモノハ刑法第四百二十一條
 ノ罪ヲ構成スルヤ將タ無罪ナルヤ否

長野縣信濃國小縣郡和村平民石工職徳竹平作ニ對スル被告事件

初審 上 田 支 廳

本件ノ事實被告徳竹平作ハ明治十九年一月十一日酒興ニ乘シ養父徳
 竹茂兵衛方ニ至リ自己養子トナリタル披露ヲ爲サ、ルト家計ヲ任セ
 サルトノ不滿ヲ鳴ラシ其末棒ヲ以テ障子貳本外二十三品ヲ毀棄シタ
 ルモノニテ明治十九年三月十一日初審廳ハ該器物ハ總テ養父茂兵衛
 カ所有ニ係ルヲ以テ刑法第四百二十一條ニ依リ所罰スル限リニ非ス
 ト判定シ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ檢察
 官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ原裁判所ハ被告カ養父ノ

器物ヲ毀棄シタルヲ認メナカラ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ解ス可ラ
ス何トナレハ養子平作ハ養父ト別居シ利害ヲ異ニスルノミナラス未
タ相續人ト定リタルニアラサレハ養子平作ノ財産ト認ムルヲ得サレ
ハナリ況ンヤ毀棄罪ヲ犯ス者ハ刑法第三百七十七條ノ如キ特別法ナ
キニ於テオヤ是其擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ
原裁判ヲ不法ノモノト認メ治罪法第四百二十九條ニ照シ原裁判言渡
ヲ破毀シ刑法第四百二十一條ニ該ルモノトシ直子ニ被告徳竹平作ヲ
罰金三圓ニ處シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告論旨ノ如ク原裁判所ハ被告平作カ養父茂兵衛ノ器
物ヲ毀棄シタルヲ認メナカラ之ヲ治罪法第三百五十八條ニ問擬シ
無罪ノ言渡シヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條
第十二適スル毀棄ノ原由アルモノトス何トナレハ人ノ器物ヲ毀棄シ
タルモノニ刑法第四百廿一條ニ明文アリ而シテ該條ニ所謂人トハ親

屬ト他人タルトヲ問ハス故ニ自己ノ所有物ニアラスシテ他ノ所有物
ニ係ルモノヲ毀棄シタルモノハ皆該條ノ制裁ヲ受クハキモノナレハ
ナリ

治罪法ノ部

總則ニ關ス

○詐欺取財ノ件治明二千六百八十三號

豫審廳ニ於テノ免訴ノ言渡ハ公訴期滿免除ノ期限ヲ中斷スルノ
効アルヤ否

滋賀縣近江國蒲生郡日野村井町百五十番戶平民亦七長男荒物商
高木助次郎京都府上京區第十一組眞如堂前町三番戶ノ内壹號士
族古着商牧幾松京都上京區第二十一組中出水町二番戶士族無職
渡島量寛ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

本件ノ事實被告高木助次郎牧幾松渡邊量寛等ハ共謀シ明治十二年十月三十日中川千尋外二名ノ公債證書ヲ以テ金借センコトヲ民事原告人佐々木藤助ヘ示談シタルニ藤助ハ之ヲ肯セサルヨリ被告幾松ハ中大路氏緝及ヒ自己ノ所有ナル公債證書額面都合九百三十圓ヲ抵當トシ自ラ借主トナルト云フヲ以テ其承諾ヲ得該公債證書ヲ相預ケ即時金六百圓ヲ受取り被告量寛ハ藤助ノ求メニ應シ其場ニ於テ借用證書ヲ認メ掛ケタルモ證券印紙無之故證書ハ明日差入ル可クト申欺キ幾松ト供ニ藤助方ヲ辭シ其夜十時頃被告助次郎方ニ至リ右認メ掛ケタル證書ヲ甲第二號證ノ如ク前ニ藤助ニ於テ抵當ニ取ルヲ肯セサリシ中川千尋外二名ノ公債證書ヲ抵當ニ書入レ助次郎ヲ借主ト爲シ幾松外二名連印シタル證書ニ作爲シ其翌三十一日量寛ニ於テ藤助ヲ欺キ之ヲ交付シタリトノ行爲ニ就キ被告助次郎及幾松ニ對シテハ既ニ明治十五年四月廿八日當裁判所豫審ニ於テ犯罪ノ證憑充分ナラストシ免

訴ノ言渡ヲ爲シ其言渡確定ノ後檢察官ハ新タナル證憑ヲ得重テ治罪法第二百六十一條ノ規定ニ從ヒ會議局ノ判決ヲ經更ニ明治十八年三月十四日起訴シタルモノニシテ明治十八年八月四日初審裁判所ハ本件ハ犯罪當時ヨリ已ニ五年餘ヲ經過シ公訴期滿免除ヲ得タル者也而シテ被告等カ曩ニ受ケタル豫審ノ判決ハ免訴ノ言渡ニシテ期滿免除ノ期限ヲ中斷スルノ効ナキ者トシ治罪法第二百七十七條同第三百五十八條ニ依リ公訴私訴共免訴スル旨宣告シタルニ檢察官ハ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ治罪法第十四條ヲ案スルニ一旦起訴ノ手續ヲ爲シタル以上ハ其事件ノ有罪ナルト免訴ニ歸スルトヲ問ハス期滿免除ノ期限ヲ中斷スヘキ者ニシテ被告等カ曩ニ豫審ノ判決ヲ受ケタルヨリ未ダ三年ヲ經サレハ期滿免除ヲ得サル論ヲ俟タス然ルチ原裁判所ニ於テ既ニ期滿免除ヲ得タル者トシ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト論シ民事原告人モ前趣旨ヲ以テ上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於

テハ上告論旨ハ相當ノモノトシ原裁判ハ事實理由不備ノモノト認メ
破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク被告等ハ明治十二年十月中詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルモ
ノトシテ起訴アリタル未豫審ニ於テ證據不充分ナリトシ一旦免訴ノ
言渡ヲ受ケ爾後新タナル證據ヲ得テ會議局ノ判決ヲ經テ更ニ公訴セ
ラレタル者ニシテ前ニ豫審ノ判決ヲ受ケタルヨリ未タ三年ヲ經過セ
サル者ナリ然リ而テ原裁判所ハ被告等カ曩ニ受ケタル豫審ノ判決ハ
免訴ノ言渡ナレハ期滿免除ノ期限ヲ中斷スルノ効ヲ有ス可カラスト
ナシ犯罪ノ當時ニ遡リ期滿免除ノ期限ヲ起算セリ今茲ニ治罪法第十
四條ヲ案スルニ其法文ニ日期滿免除ハ刑事裁判所ニ於テ檢察官若ク
ハ民事原告人ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ公判ノ手續アリタ
ルニ因リ其期限ノ經過ヲ中斷ス云云其第二項ニ日期滿免除ノ期限ノ
經過ヲ中斷シタル時ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタルヨリ更ニ

其期限ヲ起算ス但前後ノ日數ヲ通算シテ第十一條ニ定メタル期限ノ
二倍ヲ超過スヘカラストアリテ一旦起訴又ハ豫審公判ノ手續アリタ
ル上ハ其結果ノ有罪ナルト免訴ニ歸スルトニ依リ期限ヲ中斷スルト
否トナ區別スヘキ明文ヲ視ス然ラハ則チ豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メ
タルヨリ更ニ三年ヲ經過スルカ又ハ前後ノ日數ヲ通算シ期限ノ二倍
則チ六年ヲ經過スルニ非サレハ期滿免除ヲ得サル論ヲ俟タス被告等
ノ如キ前豫審ノ判決ヨリ二年若干月ヲ經過スルノミニシテ前後ノ日
數ヲ通算スルモ五年餘ニ過キサル者ナレハ無論相當ノ刑ヲ科スヘキ
者ナリトス然ルチ原裁判玆ニ出テヌ犯罪ノ當時ニ遡リ期滿免除ノ期
限ヲ起算シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ直ニ
裁判スヘキノ處原判文ヲ閱スルニ被告等ニ於テ共謀シ佐々木藤助ヲ
欺キ金員ヲ詐取シタリ云云トノミ事實ヲ記載シ其詐取ノ手段ト摸樣
トヲ明記セサルニ付法律ヲ適用スルニ由シナク則チ事實ノ理由不備

ナル不法ノ裁判ナリトス

民事原告人起訴ニ關ス

○逮捕監禁ノ件明治十九年
甲第二百十四號

監禁制縛ノ所爲ニ由リ損害賠償ノ言渡ヲ受ケタル後被告ハ控訴
ヲ爲シ控訴ノ裁判ニ於テハ始審ノ裁判ヲ取消シ無罪ノ裁判ヲ受
ケ確定シタル場合ニハ私訴ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤ

鹿兒島縣大隅國始良郡平松村士族當時宮城縣石卷警察署詰警部
補有川萬之助神奈川縣武藏國橘郡川崎砂金町士族當時宮城縣石
卷警察署詰巡查三宅昇平宮城縣陸前國仙臺區北六番町士族當時
同縣石卷警察署巡查伊藤成幸ニ對スル被告事件

初審 仙臺輕罪裁判所

本件ノ事實被告有川萬之助三宅昇平伊藤成幸ハ明治十九年五月十五
日初審裁判所ニ於テ福島カツノ密賣淫事件ヲ取調ニ當リ擅ニ監禁制

縛シテ毆打拷責シタルモノト認メラレ重禁錮一月ニ處シ罰金貳圓ヲ
附加スト言渡シタルヲ不當トシ控訴ヲ爲シタルニ宮城控訴院ハ被告
等カ犯罪ハ其證憑充分ナラサルモノトシ無罪且放免ノ言渡ヲ爲シタ
リ然ルニ嚮キニ初審裁判所ニ於テ民事原告代理人ヨリ被告等ハ對シ
福島カツカ負傷診察料都合金三圓ヲ請求セシニ民事原告人ノ請求ハ
當然ノ理ニ付被告三名連帶ヲ以テ賠償スヘシト初審裁判所カ言渡シ
タルヲ不當トシ被告等カ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判所ハ無根ノ
事實アルニモ關ハラス被告等カ監禁制縛ノ所爲ヨリ生シタル損害ナ
リトシ診察料三圓ヲ被害者ヘ辨償スヘシト言渡セシモ被告等カ密賣
淫違犯者ヲ取調フルニ當リ留置シタリトノ事實ヲ見認メナカラ擅ニ
監禁セシトノ言渡ハ其理由ノ齟齬アル不當ノ裁判ナリ被告等ハ嘗テ
其所爲ナク從テ其實ニ應スル義務ナキニ付キ茲ニ上告ニ及フト云フ
ニアリ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判所即チ仙

臺裁判所カ言渡シタル私訴裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク本案ハ公訴及ヒ私訴ニ付仙臺輕罪裁判所ノ裁判ヲ受ケ
 其公訴ニ付テハ始審ノ裁判ナルヲ以テ被告三名ヨリ之ヲ宮城控訴院
 ニ控訴シ私訴ニ付テハ其金額百圓ニ滿タス終審ノ裁判ナルカ故ニ之
 ナ本院ニ上告シタルモノニシテ其公訴ノ裁判ハ明治十九年七月五日
 宮城控訴院ニ於テ始審ノ裁判ヲ取消シ被告三名ハ其所爲罪ト爲ラス
 又ハ犯罪ノ證憑充分ナラストシ刑法第二條治罪法第三百五十八條ニ
 依リ各無罪トシ且放免スル旨ヲ言渡シ其終審裁判確定セシモノナレ
 ハ被告三名ハ今ヤ故意ニ監禁シ且之ヲ毆傷セシハ勿論過失ニ因リ
 人ヲ創傷シタルトモ已ニ認メ得ヘカラサルノ結果ヲ來シタルヲ以テ
 從テ被害者ノ創傷ハ被告人等ノ責任ナリト云フ能ハサルニ至リシモ
 ノナリ故ニ今日ヨリ之ヲ視レハ仙臺輕罪裁判所カ被告三名ニ對シ民
 事原告人ノ請求ハ當然ノ理ニ付辨償スヘキ旨ヲ言渡セシハ失當ノ裁

判タルヲ免レス

證據ニ關ス

○毆打創傷ノ件明治十九年
第九百一號

致死ノ原因ヲ斷定スルニハ證人ノ陳述及證具等アリト雖モ獨リ
 鑑定又ハ醫師診斷書等ノ如キ死屍ノ檢察ノミニ據ルヘキヤ否
 福島縣磐城國磐前郡下神白村平民農業馬目佐平治ニ對スル被告
 事件

初審 平 支 廳

本件ノ事實ハ被告馬目佐平治ニ對スル毆打致死事件ニ付豫審廳豫審
 判事ノ言渡シタル豫審終結ヲ不當トシ被告ハ故障ヲ爲シタリ其第一
 ノ趣旨ハ豫審終結言渡書ニ留吉ヲ毆打死ニ致ラシメタルモノトシ其
 證憑ハ司法警察官ニ對シ爲シタル供述及參考人久田巳之次郎等ノ申
 立ニ據リ充分ナリトアレモ右巳之次郎ハ未丁年者ニ在テ何等ノ申立

ヲ爲シタルヤ豫審官カ之ヲ明示セサレハ入監中知ルニ由ナク又警察官ノ訊問ニ對シ留吉ヲ楦ヨリ突落シタリト申供セシハ同官ニ於テ留吉ヲ毆打死ニ致ラシメタルヲ無之旨主張スル以上ハ二年乃至三年モ入監セラレン云云トノ説諭ニ無實ノコトヲ申立タルモノニシテ豫審官ハモ縷々辯明ナシタレハ採用セラレス却テ其虚言ヲ信シ有罪視シセラルタルハ不當ノ事第二前條被告カ自供ヲ動ス可ラサルモノトセハ其犯罪ノ證據トス可キ物件及其死体ニ創痕ナク醫師兩名ノ鑑定書ニ依ルモ其形蹟ナケレハ右犯罪ハ一點ノ因ル可キモノナシ然ルヲ豫審官カ毆打死ニ致シタルモノト推測セラレタルハ頗ル越權ノ處分ナリトノ事第三其證據ノ據ル可キナキヲ單ニ已之次郎ノ陳述ノミヲ以テ輕ク重罪犯ト認定セラレタルノミナラス其終結言渡書ニ犯罪ノ模様證據ノ何タル理由ヲ付セス治罪法第三百九十九條末項ニ違ヒ同法第二百三十四條第四越權ノ處分ナリトノ事以上ノ趣意ヲ以テ故障ヲ爲

シタルニ會議局ハ被告ハ明治十八年九月一日叔父留吉ヲ楦先ヨリ突落シ且毆打シ即日死ニ致ラシメタルモノトシ其證據ハ司法警察官ノ訊問ニ對スル被告ノ供述ト參考人久田已之次郎等ノ申立ニ據リ充分ナリトアリテ右被告カ何ヲ以テ留吉ヲ毆打シ死ニ致ラシメタルヤ之ヲ明示セス因テ其事實ヲ一件書類ニ付細カニ監査スルニ抑被告カ當時留吉ヲ楦ヨリ突落シタルコトハ司法警察官ニ於テ第二回ノ訊問ニ對セル白狀ニ依リ明カナリトス而シテ同人ヲ毆打シタルコトハ參考人馬目子之松カ同官ニ於テ爲シタル申供ニ留吉カ楦ニ俯シ居タルヲ邪魔云云トテ傍ラニアリタル楦桶ヲ片手ニテ取りナカラ横ナグリニ致シ背中アタリチ一ツ打タリト見受ケタリト又參考人久田已之次郎ニ於テハ留吉ヲ邪魔ナル故トケト手ヲ以テ楦ヨリ土上ニカキ落シ同人ノ髻ヲ奪ニテニツ打チタリ云云目撃セリトアリ右等ノ口供ト當時ノ舉動ヲ察スルニ留吉カ稻運般ノ手傳ヲモナサス楦先ニ俯シ出入ノ妨ケ

トナルヲ憤リ有合ノ擔桶ヲ以テ打タルモ尙同人カ立退カサリシヨリ
 同人ヲ楦先ヨリ突落シ再拳ヲ以テ毆打シタルモノナリト信認ス然リ
 ト雖モ其致死ノ點ニ至リテハ其創傷ノ成否ヲ斷定セサル可ラス其之
 ヲ斷定スルニハ獨リ死体ノ檢察ニ據ラサルヲ得ス因テ醫師小野良庵
 ノ檢案書ヲ閱スルニ肺氣至急疼痛ノ爲カ死ノ原因詳カナラストアリ
 而シテ其死体ニ傷痕ナキトハ同人カ豫審官ニ對シ陳述スル所ニシテ
 尙死ノ原因斯ク詳カナラサルカ爲メ再ヒ警察官ニ於テ醫師樋口改ヲ
 シテ其死体ヲ檢案セシムルニ曰ク該死体ハ已ニ二十有六日ヲ經過シ
 皮膚悉ク腐敗スルニ依リ原因不明ト云トアレハ之ヲ毆打成傷致死
 ノ材料トスルニ足ラス因テ之ヲ觀レハ被告ハ留吉ヲ楦ヨリ落シ毆打
 シテ創傷ヲ成サ、ルモノナルヤ明カナルモ成傷及致死ノ證據ナキモ
 ノナリ然ルヲ毆打ニ原因シ死ニ致ラシメタルモノト斷定セシハ治罪
 法第二百三十四條第四ニ該當シ被告カ申立タル故障ノ趣旨ハ其理由

アルモノト判決シ同法第二百五十二條第二項ニ基キ豫審終結言渡ニ
 付毆打致死ノ一部ヲ取消シ更ニ全部ニ付被告カ留吉ヲ毆打死ニ致ラ
 シメタルノ證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百三十五條ニ依リ免
 訴ス而シテ當時同人ヲ楦先ヨリ突落毆打シテ創傷ヲナサ、ルハ司法警
 察官ニ對シテ爲シタル白狀ト參考人久田巳之次郎馬目子之松ノ申供
 ニ係リ明晰ナルヲ以テ右所爲ヲ法律ニ照セハ刑法第四百廿五條第九
 ニ該當シ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上九十五錢以下ノ科料
 ニ處スヘキモノト判定シ被告ヲ平達警罪裁判所ヘ移スモノナリト判
 決シタルニ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ大凡醫師ノ診斷書詳ナ
 ラス又ハ屍ノ腐敗等ニ係ル場合ニ在テハ應ニ犯罪ノ當時及其前後ノ
 情況ニ據テ以テ事實ヲ審究セサル可ラス治罪法第四百十六條ニ曰其
 他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任スト蓋シ其徵憑ナルモノハ所謂犯
 罪ノ情況ニシテ之ヲ分析スルハ曰徵驗曰事實ノ推測曰顯跡是レナ

リ其他法律ノ推測性法ノ推測ヲモ加ヘテ一層判定カヲ擴張ナラシムル所ニシテ固ヨリ本職カ偶言ニアラス其情况ハ第一被告カ警官初度ノ訊問中ニ曰ク自分又々留告ニ向ヒ其處ニ居リテハ手傳ハスハ邪魔ニナルニ付退カシヤレト少シク高聲ニ申シタル處留吉ハ其場ヲ起キ立ントスルヤ否何ノ譯ナルヤ其場ニ倒レ云云近寄り見ルニ顔色等常ニ變シタルニ付驚キ云云食事ヲ與ヘタルモ更ニ食スル様子モ之レナク云云第二參考人久田巳之次郎カ警察署初度ノ訊問中ニ曰佐平治カ留吉ヲ椽ヨリ突落シタル後其場ニ於テ留吉ノ臂ノ邊ヲ拳ニテニツ打云云留吉ハ椽ヨリ落サレタル際土上ニ横ニ倒レタル儘ニテ只痛ヒ痛ヒト申シタル迄ニテ云云佐平治一人ニテ該家ニ連レ行云云最早口ヲ立ツト叶ハス只大息ヲツキ居ル計紙ヲ水ニ濡ラシ留吉ノ口ニ水ヲ入レ吞セシモ只眼ヲマジリマジリト致ス計云云第三被告妻モトカ警官初度ノ訊問中ニ曰夫佐平治カ叔父留吉ニ向ヒ稻ヲ押込ムニ邪魔ニナ

ル故引去ラシヤレト申シタル處留吉ハ立去ラントセシカ其場ニ倒レ佐平治カ納屋ニ抱ヘ行食事杯ヲ與ヘシモ少シモ飲食叶ハス同日四ツ過頃ニ死去致云云第四被告叔母馬目アキカ警官ノ訊問ニ曰稻ヲ椽側ヘ積込際佐平治ハ留吉ニ向ヒ邪魔ニナル故退ケト再三申セ共立去ラサリシカ其内留吉ハ立去ラントシテ立シモノカ其場ニ倒レ佐平治ハ抱キ揚ケ納屋ヘ連レ行キ食物ヲ與フルモ更ニ食セス何ヲ問フモ更ニ答ナク云云水モ何ニモ遣ツテモ更ニ分ラス其内間モナク死去致云云右掲クル情况ノ如キハ即チ被告及親族等カ正ニ目撃セル現場ノ事跡ニシテ依之觀ルルハ被告カ留吉ヲ椽ヨリ突落シ毆打スルヤ留吉ハ忽チ昏倒シ儘ニ微少ノ生氣ヲ存シタル迄ニシテ殆ト絶息ニ陥リ暫時間ニシテ全ク生氣離散シ死ニ就ケル事實最モ明確ナリ故ニ苟モ審理ノ緻密ヲ要スルルハ被害者留吉ノ死ニ至ル被告カ暴行ニ因原セシト明ニシテ誰カ之ヲ信セザラント欲スルモ得ヘケンヤ是則證據ニ所謂

顯跡ナルモノニシテ充分有罪ヲ確信スルニ足ルヘキ證左トスル所ナ
 リ然ルニ會議局ニ於テ被告カ暴行確信セルモ死ノ原因不明了ナリト
 スルモノハ則醫師ノ檢案書及ヒ屍ノ腐敗ニ基因スルニ過キサルヘシ
 ト雖モ本件ノ如キハ既ニ前ニ掲ケタル確實ノ事跡等顯然タルモノニ
 シテ暴行ヲ加ヘタル後若干ノ時日ヲ經テ死狀ヲ發シタル等ノモノト
 同日ノ論ニアラス故ニ被害者ノ死ニ至ル或ハ餘病ニ因ルヤ否ノ詮索
 ハ必竟狐疑ニ涉ルモノト云ハサルヲ得ス元來刑事上醫師及ヒ其他ノ
 者ヲシテ鑑定セシムルモノハ相當官吏ノ當然檢證スヘキ事物ナルモ
 専門家ノ學術ニアラサレハ爲シ得サルコアルニ由ルト雖モ是只官吏
 ノ心證ヲ補フ而已ニテ是カ事實ニ徴シテ適セサルモノニ至テハ固ヨ
 リ信用ヲ要セサル所ナリ蓋シ今會議局ニ於テ論スル檢案書ナルモノ
 ハ人民即被告ノ請求ニ依リテ死後ニ與ヘタル屆書タルニ過キス况ン
 ヤ亦今日ノ醫師中斷訟醫學ノ何物タルヲ辯知セル者誠ニ九牛カ一毛

ニ過キサルニ於テオヤ然ルニ會議局ニ於テ本案ヲ斷スルニ際シ必要
 ナル事跡ヲ顧ス徒ラニ檢察書等ニ拘泥シ被告ノ故障ヲ認メテ輕ク重
 罪ニ係ル豫審ノ言渡ヲ取消シ違警罪裁判所ヘ移スノ言渡ヲナシタル
 ハ誤斷ノ甚シキモノト考ヘ該言渡ノ破毀ヲ求ムル爲メ上告スト云フ
 ニ在リ刑事局ニ於テハ上告論旨ハ其ノ理由アルモノト認メ治罪法第
 四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原判決ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク元來刑事上醫師其他ノ者ヲシテ鑑定セシムルモノハ專
 門家ノ學術ニアラサレハ精密ナル鑑査ヲ爲シ得サルコアルニ由ルト
 雖モ這ハ是只判官ノ心證ヲ補フノミニシテ素ヨリ其鑑定若クハ診斷
 ナルモノハ證據微憑ノ一部分タルニ過キス故ニ其鑑定等ニシテ事實
 ニ適セスト思惟スルモノ又ハ他ニ信認スル處ノ證憑アリタランニハ
 其證憑ニ依テ判定ヲ降シ得可キコ論ヲ俟タス然ルニ原會議局ニ於テ
 本案ノ被告事件タル致死ノ點ヲ斷定スルニハ獨リ死体ノ檢察ニ據ラ

サルヲ得スト判定シ他ノ證憑アルニハ拘ラス恰モ致死ノ點ハ醫師診斷書ノ外法律上他ニ證憑ナキモノト判定シタルハ頗ル越權ノ判決ニシテ上告論旨ハ相當ナリトス

豫審終結ニ關ス

○持兇器竊盜ノ件 明治十九年
第四百二十三號

未決正犯者逃走シテ捕ニ就カス證憑充分ナラサル場合ニハ其從犯者ニ對シテハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキヤ將タ正犯者ト同シク豫審手續ヲ中止スヘキヤ

岩手縣陸中國騰澤郡前澤村百四十四番地平民節忠職佐々木喜八ニ對スル被告事件

初審 磐井 支 廳

本件ノ事實ハ被告佐々木喜八カ持兇器竊盜事件ニ對シ初審廳豫審掛カ爲シタル豫審終結言渡シニ對シ檢察官ハ故障ヲ爲シタリ其要旨ハ

本案ノ被告人鈴木光之助事遠藤定吉ハ正犯ニシテ喜八ハ其從犯ナルヲ以テ正犯者ノ所在不分明ニシテ未タ捕ニ就カサルニ付治罪法第十四條ニ從ヒ豫審取調ヲ中止シタルモノナレハ隨テ其從犯ナル喜八ヲ審理スルニ由ナク之レカ終結ヲ爲シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ正犯ト共ニ豫審係カ證憑充分ナラストシテ喜八ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ治罪法ニ規定シタル中斷スヘキ期滿免除ノ期限ヲ減縮シタル不法ノ處分ナリト云フニアリ同會議局ハ審理ノ未治罪法第十四條ハ公訴期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷スルヲ規定シタルモノニシテ豫審ノ手續ヲ中止シタル場合ニ適用スヘキモノニ非サレハ正犯ニ付豫審ノ手續ヲ中止シ從犯ニ付テ豫審ノ未終結ヲ爲スモ公訴期滿免除ノ期限ヲ減縮スル道理ナキヲ以テ豫審掛カ佐々木喜八ニ對シ豫審終結ヲ爲シタルハ不當ノ處分ニアラス故ニ該故障ハ相立サルモノトス然レモ檢察官ニ於テ被告喜八ハ明治十八年十一月七日鈴木光之助事遠藤

定吉カ膽澤郡前澤村淺岡彌七郎邸内へ兇器ヲ携帯シ忍入り土藏ヲ毀壞シテ衣類及金員ヲ竊取シタルヲ誘導指示シタル從犯ト爲シ豫審請求ヲ爲シタルニ豫審係ハ其請求以前恐クハ外ノ誤ニ涉リ喜八ハ明治十八年十一月七日夜膽澤郡前澤村淺岡彌七郎方ニ忍入り竊盜ヲ爲シタリト認ム可キ證據充分ナラスト爲シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナルニ付治罪法第二百五十四條ニ從ヒ其終結言渡ヲ取消シ更ニ治罪法第二百五十二條ニ因リ更ニ被告喜八ニ於テハ鈴木光之助事遠藤定吉ヲ誘導指示シテ明治十八年十一月七日夜膽澤郡前澤村淺岡彌七郎方ニ忍入り金員及物品ヲ竊取スルヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル從犯ナリト認ム可キ證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第二百二十四條第一項ニ從ヒ免訴ノ言渡ヲ爲シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ正犯遠藤定吉ハ所在不分明ニシテ且欠席ノ儘終結シ得難キモノナルニ因リ豫審係ニ於テハ明治十九年二月十九日豫審手續ヲ中

止シタルモノナレハ其從犯者タル被告喜八ハ他日正犯者ヲ逮捕審理ノ際共ニ取調ヲ爲スヘキハ當然ノ順序ナルノミナラス豫審係ヨリ終結處分ニ付意見ヲ求メラレタルル到底審理スルニ由ナキモノニシテ又終結シ得ヘキ場合ニアラサレハ豫審手續ヲ中止スヘキノ意見ヲ述ヘタリシニ單リ正犯者ノミ中止シ從犯者ノ中止ニ付其請求ヲ肯ンセサルヲテ報告セラレサリシ爲メ治罪法第二百廿一條ノ趣意ニ基キ更ニ意見ヲ付スルヲ得サリキ故ニ從犯者タル喜八ノ所爲ニ對シ期滿免除ノ期限ヲ減縮シタル不法ノ處分ナリト認ノ故障ニ及ヒタル處會議局ニ於テハ治罪法第十四條ヲ解釋シテ曰該條ハ公訴期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷スルヲ規定シタルモノニシテ豫審ノ手續ヲ中止シタル場合ニ適用スヘキモノニアラサレハ公訴期滿免除ノ期限ヲ減縮スヘキ道理ナキモノナリト是實ニ誤解ノ尤モ甚シキモノニシテ豫審終結ヲ爲シタルハ不當ノ處分ニアラスト認定シタル結果モ亦此ニ原因

シ來リタルヤ瞭然タリ假リニ正犯者ノ期滿免除ヲ得ヘキハ重罪ナルニ付十年ト定メンニ治罪法第十四條ニ隨ヒ豫審手續ヲ止メタル明治十九年二月十九日ヲ初日ト爲シテ起算セハ明治廿九年二月十八日ハ期滿免除ヲ得ヘキ日ニシテ從犯者タル喜八ニ於ケルモ同様ノ理由ニ依リ其期限ヲ經過セハ治罪法第二百六十一條ニ基キ更ニ訴ヲ受クルコトヲ免カルヘキハ當然ナリ然ルニ明治廿九年二月十八日以前ニ在テ正犯者ヲ捕獲シ尙復タ豫審ニ取掛リタルニ其年三月中ニ至リ他ニ正犯者モアリ從犯者モアリ被告喜八モ從犯者ニシテ到底免カル可ラサル證憑充溢シタリトセンニ已ニ該局判決ノ如ク免訴ノ言渡ヲ爲シタルニ於テハ好シヤ新ナル證憑アリトスルモ明治廿九年二月中ニ期滿免除ヲ得ヘキ計算ナレハ之ヲ處罰スルコトヲ得サルヤ照々乎トシテ明カナリ然ラハ未タ發覺セサリシ他ノ從犯ノミ處罰ヲ受ケ獨リ喜八ニ於テハ其法網ヲ脱カレ彼是不權衡ヲ生スルニ至ルヘキニアラスヤ故

ニ會議局ノ判決ハ期滿免除ノ期限ヲ減縮ナラシムルノミナラス未タ審理ヲ盡サ、ル不法ノ處分ナリト信ス假リニ該判決ヲ正當ナリトセハ審理シ得ヘキ手續アルモ他ニ障礙アリ引繼キ取調フルニ由無キ場合アルニ於テハ本案事件ニ限ラス何等ノ犯罪ニ於ケルモ同様ノ手續ヲ以テ免訴スルコトヲ得ルニ至ルヘシ然ラハ何ヲ以テ害惡ヲ除却シ何ヲ以テカ公益ヲ保護スルコトヲ得ヘケンヤ仍テ喜八ニ於ケル未タ審理シ得ヘキ事項アルニ付免訴ノ言渡ヲ爲シ得ヘキモノニ非ラスシテ正犯者ト共ニ豫審手續ヲ中止スヘキモノナルコト益炳カナルヲ以テ該局ノ判決ヲ破却シ更ニ相當ノ明裁アラシコトヲ望ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ原會議局ノ判決ヲ適當ト認メ本案上告ハ其理由ナキモノトシ治罪法第四百二十七條ニ照シ棄却シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク上告ノ趣旨ハ前掲ノ如クナリト雖モ本案ノ如ク從犯者ト思量シタル被告喜八ヲ除クノ外其正犯ト認ムヘキモノヲ逮捕セサ

レハ豫審終結シ得ヘカヲサル場合ニ於テ喜八ニ對シ審理ヲ盡シタルモ其正犯ヲ捕獲スルニアラサレハ他ニ證據ヲ得ルノ途ナク到底其証憑充分ナラサルキハ喜八ニ對シテハ其正犯ノ捕獲ニ至ルマテ其終結ヲ中止スヘキモノニアラスシテ速カニ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス何トナレハ豫シメ豫審ニ着手スルコト期スヘカヲサル正犯ノ爲メ現在スル被告喜八ヲ永ク被疑人ニ措クノ理アラサレハナリ故ニ此場合ニ於テハ縱令公訴期滿ノ爲メ一ハ有罪トナリ一ハ免訴トナル場合アルモ此レハ是治罪法第二百六十一條ノ結果ニシテ原會議局カ法ニ背キ期滿ノ日限ヲ減縮シタルモノニアラサルナリ然ルヲ以テ原會議局カ本案ノ場合ニ於テ獨リ被告ニ對シ審判シタルハ至當ニシテ決シテ背法ノ處分ニアラストス

○詐欺取財ノ件明治十八年八月三十七號

豫審ノ言渡ニ對シ故障ヲ申立タル場合ニハ如何ノ理由ヲ示サス

直子ニ判決スヘキヤ否

愛知縣讚岐國香川郡中新町平民岡龜太郎ニ對スル被告事件

初審 高松 支廳

本件ノ事實被告岡龜太郎ハ證書變換行使事件ニ付證據充分ナラサルモノト判定サレ免訴ノ豫審言渡ヲ受ケタリ然ルニ之ヲ不當トシ民事原告人一視龍濟代人山地鐵五郎ハ故障ヲ爲シタルニ初審廳ハ該故障ハ公訴ニ付豫審ニ於ケル證據ノ取捨ヲ非難スルモノニシテ治罪法第二百四十六條第二項外ニ係ルモノナレハ民事原告代人山地鐵五郎ハ故障スヘキ權利ナキモノトノ判決ヲ爲シタルニ山地鐵五郎ハ復タ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ民事原告人ハ私訴ノ權利ヲ全フセントノ目的ニ出テ本件ニ必要ナル證據物ヲ呈シ其取調ヲ求メタルモノナレハ豫審掛ハ宜シク該證據物ハ勿論證人等取調ヘ以テ事實ヲ糺明シ犯罪ノ斷定ヲ爲スヘキニ其茲ニ出テサリシハ則チ越權ノ處分

ト謂ハサル可カラス然ルニ原會議局ニ於テ單ニ豫審掛カ證據ノ取捨ヲ批難スルモノトシ其判決ヲ與ヘタルハ不法ナルヲ以テ更ニ公明ノ判決ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ治罪法第四百十條第十一項ニ適當スル越權ノ處分ニ出テタルモノト認メ治罪法第四百二十八條ニ依リ原會議局ノ言渡ヲ破毀シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク私訴ハ公訴ニ附帶セルモノナレハ公訴上ノ證據ハ固ヨリ私訴ノ利害ニ關スヘク而シテ證據ヲ蒐集スルハ豫審判事ノ職權ニ屬スルモ其證據ノ蒐集上ニ付テハ必シモ越權ノ處分ナシト謂フ可カラサルナリ然レハ今民事原告人ニ於テ豫審ノ證據上ニ付何等論訴スルモ其旨趣ニ依リテハ強チ不理ナリト断定ス可カラサルニ原判文ヲ閱スルニ單ニ本案故障申立ハ公訴ニ就キ豫審係ノ證據ノ取捨ヲ非難スルモノニシテ云々トアリテ民事原告人カ故障ノ旨趣ヲ示サス直ニ公訴上證據ノ取捨ヲ非難スルモノナレハ故障ヲ爲シ得ヘキ權利ナシ

ト判決シタルハ不法ニシテ即チ治罪法第四百十條第十一項ニ所謂越權ノ處分ナリトス

豫審上訴ニ關ス

○竊盜ノ件 明治十九年三月九十一號

豫審終結言渡ニ對スル故障ヲ判決スルニハ必ラス檢事ノ意見書

ニ依ルヲ要スルヤ否

山口縣長門國豐浦郡川棚村五百三十四番地平民農村田久次郎ニ對スル被告事件

初審 赤間關支廳

本件ノ事實ハ被告村田久次郎カ竊盜事件ニ付豫審判事カ爲シタル終結言渡ニ對シ檢察官ハ故障ヲ爲シタリ依テ明治十九年十一月九日初審廳會議局ハ其故障趣意書及ヒ報告書其他訴訟書類ニ依リ審理ノ末被告ハ明治十九年四月十八日午後六時頃赤間關區南部町海岸ニ在ル

同町平民川崎庄三郎所有ノ米倉ニ於テ米壹俵ヲ竊取シタリトノ事ハ
 證人小田仙吉ノ證言及ヒ該米俵ニ掛ケアル繩ノ斷チ居リシ等ニ據レ
 ハ或ハ被告人カ之ヲ竊取シテ己ニ三四間程モ持去リシヲ忽チ仙吉ニ
 見咎メテ該米ヲハ直チニ元ノ場所ヘ差戻シ、者ノ如クナレモ果シ
 テ之ヲ竊取リ己ニ三四間程モ持去リ居リシ者トセハ則チ其見咎メ
 ラル、ヤ直チニ米ハ打捨テ逃去ルコソ當然ナルニ然ラスシテ元ノ場
 所ヘ立歸リ之ヲ差戻シ置キタルト及ヒ常ニ通行アル場所ニ於テ竊盜
 ヲ爲シ而シテ人目ヲモ憚ラス公然路上ヲ擔ヒ行ク等ノコト凡ソ人情
 ニ於テ有ルヘカラサルノミナラス彼ノ手鈎ノ如キモ被告人ハ當時該
 所ニ於テ搜シ得タリトテ現ニ之ヲ所持シタルヲ以テ見レハ被告人カ
 云フ如ク眞實之ヲ搜索ノ爲メ該所ヘ來リシ者ニシテ且其米俵ニ掛ケ
 アリシ繩タルヤ即チ中程ノ藁繩ナリトスレハ被告人カ手鈎ヲ搜スニ
 付該米俵ヲ取動カセシヲ以テ其際偶々斷切レシヤモ知ル可ラス其他

證據ノ據ルヘキナケレハ直チニ以テ被告人ヲ竊盜ノ所爲アル者トハ
 斷スルヲ得可ラス然ラハ豫審判事カ此被告事件ニ對シ犯罪ノ證據充
 分ナラサル者トシ治罪法第二百二十四條ニ照シ免訴且放免ノ言渡ヲ
 爲シタルハ至當ニシテ之ヲ越權ノ處分ト謂フヲ得サル者トス依テ治
 罪法第二百五十二條ニ依リ豫審判事ノ言渡ヲ認可スト判決シタルニ
 之レヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其第一ノ要旨ハ會議局ニ於
 テ豫審終結言渡ノ故障ヲ判決スルニハ治罪法ノ規則ニ從ヒ檢事ノ意
 見書ニ依ラサル可カラス然ルニ原會議局ハ其意見書ニ依ラスシテ判
 決ヲ爲シタリ殊ニ本件ハ會議局ニ於テ被告人證人ノ取調ヲ爲シタル
 ニ付本官ニ於テモ其訊問陳述ニ對シテハ一二必要ノ意見ナキニアラ
 サリシ然ルニ原會議局ハ其意見書ニ依ラサリシノミナラス其意見書
 ナモ差出サシメヌシテ漫リニ判決ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナリ第二
 ノ要ハ被告カ犯罪ノ證據ハ充分ナルニ原會議局ニ於テ被告カ所爲ハ

人情ニ於テ有ルヘカヲサルモノトシ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリ假令人情ニ於テ有ルヘカヲサル所爲ニモセヨ人ノ所有物ヲ竊取セハ則チ竊盜ノ犯罪人ナリ本案言渡ノ如キハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付スヘキモノニシテ人情ニ立入ルヘキ筋ニアラス云々ト論シタルモ其他ハ必要ナキヲ以テ之ヲ零ス刑事局ニ於テハ上告第一後段論旨ニ基キ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原判決ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク會議局ニ於テ豫審終結言渡ニ對スル故障ヲ判決スル場合ニハ檢察官カ故障申立人又ハ對手人ニシテ別ニ事實取調ヲ爲シタルニアラサレハ檢察官ノ意見ヲ聽クノ必要ナキノミナラス之レカ意見ヲ聽クヘキ法律ノ明文アルヲ見サルモ若シ之ニ反シ會議局ニ於テ判事一名ヲシテ更ニ取調ヲ爲サシメ其報告書ヲ差出サシメタル場合ノ如キハ必ズ檢察官ノ意見ヲ聽カサル可ラス何トナレハ檢察官ニ於

テ其報告書等ヲ見タランニハ趣意書又ハ答辨書ニ異ナル所ノ意見ヲ呈スルモ期シ難シ然ルニ原會議局ハ本案ノ故障ヲ判決スルニ當リ治罪法第二百五十三條ノ法文ニ基キ判事一名ヲシテ更ニ之レカ取調ヲ爲サシメナカラ檢察官ノ意見ヲ聽カスシテ判決ヲ爲シタルハ上告第一後段論旨ノ如ク不法越權ノ判決ニシテ破毀ノ原由アルモノトス
○官文書偽造ノ件明治十八年 治十 八年 明 治 十 八 年 第 千 五 百 九 十 六 號
豫審廷ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受ケタルモノニ對シ附帶犯ヲ以テ處分シ得ヘキヤ否

福岡縣筑前國那珂郡春吉村士族無職業山田榮三郎ニ對スル被告事件

初審 福岡重罪裁判所

本件ノ事實被告山田榮三郎ハ明治十五年中亡上野順太郎ト申合セ鹿兒島縣士族伊集院道德ト無形ノ氏名及ヒ全人ヨリ全縣令渡邊千秋ヘ

宛タル官地拂下ノ添翰下渡願書全人ノ指令書及ヒ全縣廳ヨリ福岡縣
 へ宛タル添翰及ヒ其書面ニハ渡邊千秋ノ官印及ヒ鹿兒島縣廳ノ印ヲ
 偽造シ之ヲ以テ福岡縣廳へ出願セハ官地拂下ケ相成ルモノト田村耐
 輔ヲ欺罔シ明治十六年二月中右書類ヲ全人へ譲リ渡シ金四百圓騙取
 シタルモノニテ明治十八年四月十八日初審裁判所ハ刑法第九十五
 條第三百九十條ヲ適用シ第百條ニ因リ鹿兒島縣印偽造ノ所爲ヲ重キ
 モノトシ重懲役十一年ニ處シ但官印偽造事件ハ公訴狀ニ記載ナシト
 雖モ附帶犯罪ナルヲ以テ治罪法第二百七十六條ニ基キ直ニ判定ス押
 收シタル偽造書類ハ刑法第四十三條第四十四條ニ照ラシ沒收スト言
 渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ添翰指令
 書交附及ヒ金圓受取周旋ノ手續ヲ爲シタルモノナリ云云又被告ハ縣
 官トノ交際モ少々ニ非ス諸官省ノ例規ヲモ知ルヲ以テ順太郎如キ者
 ト共謀シ世人ノ疑ヲ惹起スルカ如キ拙劣ノ偽印偽書ヲ作ルノ理ナシ

シ云云又官印偽造ノ件ハ順太郎生存セハ何等ノ陳述ヲ爲スヤ圖リ知
 ルヘカラス順太郎ノ已ニ死去シタル上ハ公訴權ノ消滅スル者ナルニ
 充分ナル審理ヲモ悉サス附帶犯ト爲シ刑法第九十五條ヲ適用シタ
 ルハ越權ノ處分ト云ハサルヘカラス假リニ裁判官ノ職權内ニ係ルト
 スルモ被告ヲ共犯人ト認定スルモノナレハ則チ刑法第四百條ヲ明記
 セス又詐欺取財ノ所爲ニ對シ刑法第三百九十四條ヲ適用セサルハ法
 律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサルモノニシテ住吉村ヲ春日村ト記シタ
 ルハ事實ニ抵觸スルモノナリト云ヒ檢察官ハ被告カ官文書偽造行使
 及ヒ詐欺取財ニ對シ爲シタル處斷ハ相當ナルモ官印偽造ノ所爲ハ豫
 審終結ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ已ニ確定セシモノナレハ事實ノ如何
 ニ拘ラス治罪法第二百六十一條第三項ノ規定ニ從ヒ起訴ヲ爲スニア
 ラサレハ假令附帶犯罪ナリト認ムルモ公判ニ於テ裁判スヘキモノニ
 非サルニ起訴ヲ待タヌ輒ク裁判ヲ與ヘシハ越權ノ處分ナリト論シ附

帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ官印偽造ノ件ニ係ル上告及ヒ附帶
 上告代言人辯明大審院檢事ノ意見ハ當テ得タルモノト認メ治罪法第
 四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク治罪法第二百六十一條ニ豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡
 ヲ受ケ其言渡確定シタル時ハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付更ニ
 訴ヲ受ルコトナカル可シ但新ナル證據アル時ハ此限ニ在ラス新ナル證
 憑アル時ハ檢事ヨリ之ヲ會議局ニ差出シ會議局ニ於テハ其起訴ヲ許
 スヘキ否ヲ判決ス可シトアリテ縱令附帶犯罪ナリトスルモ更ニ起訴
 アリタル時ニ非サレハ裁判ヲ爲スコトヲ得サルハ言ヲ俟タサルナリ本
 件官印偽造ノ所爲ニ付一件書類ヲ閱スルニ此所爲ニ對シテハ原豫審
 廷ニ於テ免訴ノ言渡アリ既ニ其言渡ノ確定シタルモノナルコトハ其終
 結言渡書但書ニ依テ明カナレトモ更ニ起訴アリタルコトナシ然レハ原
 裁判官ハ治罪法第二百七十六條ニ依リ裁判ヲ爲スコト得サルモノナル

シニ輒ク之ヲ審理判決シタルハ則チ越權ノ處分アル不法ノ裁判ニシ
 テ此點ニ對スル上告及ヒ附帶上告趣旨并代言人ノ辯明本院檢事ノ意
 見ハ皆其當ヲ得タルモノトス

重罪公判ノ故障ニ關ス

○詐欺取財ノ件 明治十八年
第三百九號

公訴附帶私訴ノ缺席裁判ニ對シ民事原告人ハ故障ヲ爲シ得ルヤ否
 大阪府河内國錦部郡甘山村平民津山林平ニ對スル被告事件ニ關
 スル民事原告人故障ノ件

初審 大阪重罪裁判所

本件ノ事實被告津山林平ハ戶長勤務中明治十二年一月廿八日曾テ自
 己所有ノ寄蘆池ノ地所數筆ヲ西尾豐橋へ借用金ノ抵當トナシ其證書
 へ戶長ノ公證ヲ受ケ而シテ戶長役場備へアル公證與印簿中諸公證ノ
 部分ヲ故シニ取除キ戶長勤務中明治十四年十一月十五日金高百圓自

己借主小川利平治受人ニシテ前記地所ノ内三筆ヲ重テ抵當トセル所ノ借用證書ヲ偽造シ戸長代理用掛尾崎瓦造ノ名ヲ以テ公證ヲ爲シ其管掌セル戸長役場印ヲ盗用シ之ヲ以テ兒山養守ヨリ金百圓騙取シ又明治十五年十二月三十日金高八拾圓自己借主小川利平治受人ニシテ前記地所ノ内一筆ヲ重テ抵當トセル所ノ證書ヲ偽造シ戸長代理用掛某ヲ欺キ戸長役場印ヲ押用セル公證ヲナサシメ之ヲ以テ田口「ウ」ヨリ金八拾圓ヲ騙取シ次テ明治十六年三月五日金高九拾圓自己借主小川利平治受人ニシテ前記地所ノ内二筆ヲ重テ抵當トセル所ノ借用證書ニ通テ偽造シ共ニ戸長代理某ヲ欺キ戸長役場印ヲ押用セル公證ヲナサシメ之ヲ以テ松山某ヨリ金百八拾拾ヲ騙取シタルモノニテ明治十七年十二月廿七日初審裁判所ハ被告ハ公證及ヒ私書偽造官印盗用重典賣ノ罪アリト認メ新法實施以前ニ係ル犯罪ハ新舊法ヲ比照シ數罪俱發ニ係ルヲ以テ一ノ重キ刑法第二百四條第一項ニ從ヒ輕懲役七

年ニ處ス私訴ニ付テハ前ニ掲ケタル金百圓ニ明治十四年十一月十五日ヨリ一ヶ月ニ付金壹圓貳拾五錢ノ利子ヲ加ヘ被告ヨリ民事原告人兒山養守ヘ返償スヘシト被告及ヒ民事原告人ノ欠席裁判ヲナシタルニ民事原告人ハ該裁判ヲ不法トシ明治十八年一月九日故障ヲ爲シタルニ其申立書ニ對シ該申立ノ趣旨タル治罪法第四百六條第二項ニ明文アルモノナレハ上告ヲ爲スハ格別本文ノ如キ故障ノ申立ハ受理スヘキ法文ナキヲ以テ右故障ノ申立書受理セサル義ト心得ヘシト棄却ノ言渡ヲナシタルヲ不法トシ民事原告人ハ本按及ヒ故障ノ棄却ニ對上告ヲ爲シタリ其要旨ハ抑モ民事原告人カ被告人ニ對シ同人ノ所有シ田地建家山林ヲ抵當トシテ金百圓貸付タルハ明治六年十一月一日ニシテ其後證書ヲ書改メタルハ法律ノ改正及ヒ經時効ヲ免レン爲メニシテ貸借ハ間斷ナク連續シタルモノナリ故ニ被告人ハ明治十四年ニ在テ原告人ヨリ金百圓ヲ騙取シタルニ非スシテ却テ明治十二年ニ

曾テ原告人ニ抵當ト相成居ル地所ヲ欺隱シテ西尾豊福ヨリ金圓ヲ騙取シタルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ原裁判書ヲ閱スレハ原告ハ先取特權ヲ失ヒタルモノ、如ク判決サレシハ畢竟公判開廷ノ節民事原告人ヲ呼出サス法律上得タル權利ヲ行フヲ能ハス爲メニ種ノテ不利益ノ判決ヲ與ヘタルニ付治罪法第四編第二第三章ノ法文ノ理由ヲ具シテ原裁判所ニ故障ヲ爲シタルニ棄却セラレタルハ治罪法ノ比附引據ヲ得ラル、法理ヲ誤リ同法第三百三十二條ニ準據セサル不法ノ裁判ニシテ即チ治罪法第四百十條第七第十十一ニ該當スル破毀ノ原由アルモノナリト云フニ在リ檢察官ハ本案ノ故障ハ治罪法第三百三十三條第三百三十四條ニ依リ判決ヲ與フヘキモノナルニ其處分茲ニ出サルハ越權ノ處分ナルヲ以テ上告ノ理由アルモノナレハ故障ノ判決破毀ヲ求ムトノ意見ヲ附シタリ刑事局ニ於テハ上告ハ其理由アルトシ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判所カ故障棄却ノ言渡ヲ破毀

タルモノニ係ル

其理由ニ曰上告人ノ云フ如ク原裁判所カ民事原告人ヲ呼出サスシテ私訴ニ係ル裁判言渡ヲ爲シタルハ頗ル不法ノ所分ニシテ民事原告人ハ治罪法第三百三十二條等ニ準シ故障ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキハ固ヨリ論ヲ俟ス然ルニ原裁判所ハ民事原告人カ召喚ニ應セスシテ欠席シタル場合ニ當行スヘキ同法第四百六條第二項ヲ誤用シテ該故障ヲ棄却シタルハ越權ノ所分ナリトス已ニ此點ヲ以テ原言渡ヲ破毀スル上ハ他ノ上告點ニ對シテハ別ニ辯明ヲ與ヘス

通則ニ關ス

詐欺取財ノ件明治十八年第九百十號

立會判事缺席シ他ノ判事ヲ以テ其數ヲ補フルハ其審理ノ手續ハ更ニ最初ニ廻ルヘキヤ

大阪府西區北堀江下通五丁目拾四番地寄留高知縣土佐國土佐郡

浦戸町二百三十八番地平民小谷龍三郎ニ對スル被告事件

初審 大阪輕罪裁判所

終審 大阪控訴裁判所

本件ノ事實被告小谷龍三郎ハ明治十七年九月廿八日京都府下京區第拾三組京極町紙商石角伊助カ土佐半紙買入ヲ爲サントスルニ當リ山中清兵衛カ其代金ノ内五百圓ヲ受取之ヲ持逃爲シタルハ豫テ被告等カ共謀ニ出テタルモノト判定シ明治十八年六月初審裁判所ハ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ二年ノ重禁錮ニ處シ罰金二十圓監視一年ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ控訴ヲ爲シ終審裁判所ハ原裁判ハ不當ノモノト判定シ之ヲ取消シ無罪放免ノ言渡ヲ爲シタルニ檢察官ハ上告ヲ爲シタルニ其要旨ハ被告事件ハ證據充分ニシテ有罪ノ論告セシニ裁判官ニ於テ證據不充分トシ無罪ノ言渡ヲナセリ本官ト大ニ意見ヲ異ニスルト雖モ如是事實ノ認定ハ承審官ノ

權内ナレハ本官ノ容喙スヘキ限ニアラサレハ固ヨリ上告ノ理由ト爲ス能ハスト雖トモ本按裁判ハ他ニ瑕疵ノアルアリ是本官上告ノ旨趣トスル所ナリ抑公判判事ハ公廷ノ訊問證據調檢察官其ノ他訴訟關係人ノ辯論ヲ聽キ心證發起シ以テ事ヲ判斷スルモノナレハ必ス同一ノ判事始終出廷其手續ヲ盡サ、ルヲ得ス若一判事事故アリ代ルキハ更ニ訊問辯論ヲ聽サルヲ得ス是心證裁判ノ基本ナリ即チ治罪法第三百十八條第三百八十七條ヲ參照スルモ知ルヘキナリ然ルニ本按裁判ハ三會ニ結了シ其一會開廷ハ本問判事立會其二會ハ關判事立會其三會立會ハ廣瀨判事一會毎ニ立會判事ヲ異ニスルモ更ニ訊問證據調ヲ爲サス辯論ヲ聽カス其儘判決ヲ爲セリ是所謂不法ノ處分ニ係リ治罪法第四百十條第十一ニ該當スル上告ノ理由アリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告論旨ヲ相當ノモノト認メ原裁判言渡ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク凡ソ一事件ノ裁判ハ其獨決制タルト合議制タルトノ別
 ナク審理ヨリ判決ニ到ル迄始終同一ノ裁判官ニアラサレハ之ヲ爲ス
 不能ハサルモノニシテ若シ審理中事故アリテ他ノ裁判官之レニ代ル
 事ハ新タニ最初ヨリノ審理ヲ遂ケ然ル後其判決ヲ與フヘキモノトス
 何ントナレハ始終連續シテ審理シ親ク其情況ヲ詳悉スルニアラサレ
 ハ必證ヲ感起シ事實ヲ認破スルニ由ナケレハナリ本接上告ニ付其公
 判始末書及ヒ裁判言渡書ヲ閱スルニ第一回ノ訟廷ニ出席シタル裁判
 官ノ内壹名ハ第二回ニ出廷セズ新タニ他ノ裁判官壹名ヲ以テ之ヲ填
 補セシニモ拘ハラズ其審理ハ之ヲ最初ニ遡ルナク唯以後ノ手續ノ
 ミヲ結了シ終ニ其判決ヲ爲スニ到テハ還タ第一回ノ裁判官三名ヲ以
 テ之ヲ宣告セリ夫レ本案ハ斯ノ如ク每次裁判官ヲ異ニシ其被告事件
 ノ或ル部分ニ對シテハ全ク其審理ニ干與セサルモノヲ加ヘテ三名ト
 シ裁判宣告ヲ爲シタリシハ表面合議ノ体裁ヲ飾ルト雖モ其實質ヲ失

ヒタル不當ノ裁判ナルヲ以テ檢察官上告論旨ノ如ク治罪法第四百十
 條第十一項ニ適合スル越權ノ處分アルモノトス

上告ニ關ス

○委託物拐帶ノ件明治十八年
第六百廿四號

換刑處分ニ對シ上告ヲ爲シ得ルヤ否

和歌山縣伊都郡下兵庫村平民無職業森本傳之助ニ對スル被告事
 件

初審 和歌山輕罪裁判所

本件ノ事實被告森本傳之助ハ明治十六年三月中和歌山縣那賀郡長谷
 中村小藪淺三郎弟文之助ヨリ委任ヲ受ケ九度山學校ニ到リ蒲團書籍
 ヲ受ケ取り歸途惡意ヲ生シ大阪府河内地方ニ於テ賭博ヲ爲シ右蒲團
 打負ケ書籍ハ大阪府區名不知書林へ代金四圓ニ賣却シテ費用シ又明
 治十七年十月一日伊都郡下兵庫村九鬼佐五郎方へ忍入り衣類七品金

五十九錢ヲ竊取シ又同郡志賀村姓名不知者ノ半纏壹枚ヲ竊取シタルモノニテ明治十七年十一月廿二日初審裁判所ハ右委託物ヲ拐帶ノ所爲ハ刑法第三百九十五條末項ニ依リ詐欺取財ヲ以テ論シ第三百九十九條ヲ適用スヘク竊盜ヲ爲シタルハ第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用スヘク以上二罪俱發シタルヲ以テ第三百九十四條第三百九十四條ニ據リ重禁錮一年罰金五圓ニ處シ監視六月ニ付シ其裁判確定シ然ルニ被告ハ該罰金ヲ完納セサルヲ以テ原裁判所ハ明治十八年一月十六日檢察官ノ請求ニ因リ刑法第二十七條ニ照シ四日ノ輕禁錮ヲ命シタルニ此レニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ罰金完納セサルニ付換刑ヲ請求セシニ裁判官ハ之ヲ四日ノ輕禁錮ニ換ヘ其言渡ヲ爲シタリ蓋シ裁判官カ四日ノ輕禁錮ニ處シタルハ請求書ニ四圓ト誤記シタルモ知ルヘカラスト雖モ裁判官ハ檢察官ノ意見何如ニ拘ハラス相當ノ言渡ヲ爲スヘキニ五圓ノ罰金ニ對シ四日ノ輕禁錮ニ換ヘタルハ

刑法第二十七條ニ背反シタル擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破毀更正ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ換刑處分ニ對シテハ上告ヲ爲シ能ハサルモノトシ該上告ハ棄却シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク凡上告ハ裁判言渡ニ對スルニアラサレハ爲ス能ハサルヲハ治罪法第四百十條ニ規定セラレタリ而シテ罰金ヲ禁錮ニ換フルハ則チ執行ノ一部ニシテ裁判ニアラサルヲハ刑法第二十七條第二項ニ於テ明カナリ然ルヲ以テ換刑ノコトニ付假令違法ノ虞アリトスルモ其之ヲ命令シタル裁判官ニ對シ更正ヲ求ムルハ格別之ニ對シ上告ヲ爲ス能ハサルモノトス

再審ニ關ス

○詐欺取財ノ件明治十九年十一月廿四號
重抵當ノ處刑ヲ受ケ裁判確定ノ後受刑者死亡シ後親族ヨリ反對ノ證據ヲ呈出スルニ於テハ直チニ再審ノ理由トナルヤ

京都府山城國愛宕郡高野村平民農業茂兵衛事二股音治郎ニ對ス
ル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

本件ノ事實被告二股音治郎ハ明治十五年五月中山城國愛宕郡上加茂村西村柳吉カ周旋ヲ以テ全郡靜原村古澤西之助ヨリ金六十圓借用シタル際其抵當ニ差入レ置タル自己所有ノ全郡高野村字河原町宅地壹畝七步外建家壹棟ヲ欺隱シテ明治十七年十二月中二股伊之助ヨリ金六十圓借用シタル際右宅地壹畝七步外建家壹棟ヲ重テ抵當ト爲シタルモノニテ明治十八年十二月廿三日初審裁判所ハ刑法第三百九十三條同第三百九十四條ニ照シ重禁錮三月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ監視六月ニ付スルモノナリ但シ差押ヘタル西村柳吉ヨリ被告宛地券證受取書ハ治罪法第三百八條ニ依リ被告ニ還付スト言渡シタル裁判確定ノ後被告音次郎死亡セシニヨリ親族青木武助ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタ

リ其要旨ハ音次郎カ自己ノ不動産ヲ重子テ抵當ト爲シタル證憑毫モ之レナキニ覺ヘナキ罪ヲ受ケタルハ是全ク西村柳吉カ惡意奸計ニ陷リ地券實印ヲ欺取セラレタルモノナリ之レニ依リテ戶長役場ヨリ取調ヘタルニ別紙午四月廿八日付ノ西村柳吉ヨリ被告二股茂兵衛ヲ宛テタル地券受取證ニ押捺シアル印影ハ西村柳吉カ實印ニ相違ナシトノ戶長ノ證明ニ依リ明カナリ到底原裁判ハ錯誤ヲ免レサルヲ以テ治罪法第四百三十九條第四百四十條第四百四十一條ニ依リ原裁判言渡ヲ破毀シ公明ノ裁判ヲ願フト云フニアリ大審院立會檢事ハ本案青木武助ヨリ差出シタル午四月廿八日付西村柳吉ヨリ被告二股茂兵衛ヲ宛テタル地券受取證ハ所轄戶長ノ證明アルモ其記スル所ノ事項單簡ニ失シ未タ以テ容易ク被告ト古澤西之介トノ間ニ金員貸借書入抵當ノ實ナシト斷言スルヲ得サレハ是レヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アリト論了スル能ハサルヲ以テ再審ノ原由ナク速ニ棄却相成度トノ意

見テ述ヘタリ刑事局ニ於テハ本訴ハ再審ノ原由ナキモノト認メ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本訴再審ノ趣旨ハ前掲ノ如ク原裁判ニ錯誤アルハ地券受取書ニ戸長ノ證明アルニ依リ明白ナリト云フニ在ルモ該證書ハ西村柳吉ヨリ被告曾次郎ヘ渡シタルモノトスルモ其記スル處ノ事項ハ單簡ニシテ未タ之ヲ以テ被告ト古澤西之介トノ間ニ金圓貸借書入ノ實ナシト斷言スルノ證書ナリト云フヲ得ス故ニ是ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アリト論了スル能ハサルモノトス

裁判管轄ニ關ス

○證書偽造ノ件明治十一年七月二十七日

舊法ニ於テハ輕罪ニ該リ新法ニ照スルハ重罪ノ刑ニ該當スルモノハ其管轄ハ輕重裁判所ノ屬スルヤ且右ノ場合ニ豫審ヲ經サルルハ豫審判事ヘ送附ノ言渡ヲ爲スヘキヤ將タ直ニ本案ノ

裁判ヲ爲スヘキヤ否

新潟縣越後國北蒲原郡十二新田平民廣瀬萬平ニ對スル被告事件

初審 新發田 支廳

本件ノ事實被告廣瀬萬平ハ明治十三年十月廿八日自己所有ノ田畑野反別合シテ三反五畝拾二步ヲ澁谷九藤治ヘ賣渡シ置キナカラ是ヨリ前キ該地所ヲ曾我田鶴方ヘ抵當ニ差入レントシ戸長高野圭甫ノ公證ヲ得尋テ不用ニ屬シタル證書ノ手許ニ存在セルヲ幸トシ右證書面戸長與書ノ年月日等ヲ改竄變換シ尙ホ其名宛ヲ丹羽恒三郎宛ニ書改メ之ヲ恒三郎ヘ交付シ終ニ明治十四年一月五日恒三郎ヨリ金百圓ヲ借リ受ケ其際恒三郎ニ於テ名宛書改メノ事ヲ戸長カ承認セサレハ不都合ナリト申談シタルヨリ更ニ被告ハ戸長高野圭甫カ之ヲ承認シタル旨ノ書面ヲ偽造シ以テ恒三郎ヘ差入レタルモノニテ初審裁判所ハ被告ハ第一官文書偽造第二私書偽造第三詐欺取財ノ三罪ヲ犯シタルモ

ノト判定シ被告カ所犯ハ刑法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ在テ第一ノ罪ハ新律綱領詐欺律詐爲官文書條ニ依リ官ノ餘ノ文書ヲ以テ論シ懲役百日ニ該リ第二ノ罪ハ改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲重キニ問ヒ懲役七十日ニ該リ第三ノ罪ハ賊盜律詐欺取財條及改正七賍例圖ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ賍金百圓懲役五年ニ該リ二罪以上俱發スルヲ以名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ第三ノ罪ヲ以懲役五年ニ處スヘキモノトス新法ニ在テ第一ノ罪ハ刑法第二百四條ニ依リ輕懲役ニ該リ第二ノ罪ハ同第二百十條第二項同第二百十二條ニ依リ第三ノ罪ハ同第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ數罪俱發ニ付同第百條ニ照シ一ノ重キ第一ノ罪ヲ以處スヘキモノトス因テ輕キ舊法ニ從ヒ尙ホ明治十四年第八十一號布告第一條第十項同第六條同第十條ニ依リ重禁錮五年ニ處ス但偽造又ハ變換ノ證書ハ所有主丹羽恒三郎ニ還附スト言渡シ

タルニ檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要領ハ第一新法實施前ニ在テ數罪俱發シタル場合ニ於テハ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ於テ被告カ第一ノ罪ハ詐欺律詐爲官文書條ニ依リ懲役三年ヨリ五等ヲ減シ懲役百日ニ該リ第二ノ罪ハ改定律例第二百四十七條ニ照シ不應爲重ニ問ヒ懲役七十日第三ノ罪ハ賊盜律詐欺取財條ニ攙シ竊盜ニ準シテ論シ賍金百圓懲役五年ニ該ルニ罪以上俱發スルヲ以名例律二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ第三ノ罪ヲ以テ懲役五年ニ處スヘキ者ト爲ス新法ニ在テ第一ノ罪ハ刑法第二百四條ニ依リ輕懲役ニ該ルモ明治十四年第八十一號布告第二條ノ例ニ倣ヒ十一日以上百日以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノナリ第二ノ罪ハ刑法第二百十條第二百十二條ニ依リ第三ノ罪ハ第三百九十條第三百九十四條ニ依リ數罪俱發スルヲ以刑法第百條第二項ニ依リ所犯情狀最モ重キモノヲ擧テ之カ判決ヲ與ヘサルヘカラス今詐欺取財ヲ以テ重ト

爲シ判決ヲ與フルモノト爲サン歟則其新舊法ヲ比照シ其輕キ新法ニ從ヒ二月以上四年以下ノ重禁錮ノ範圍内ニ就テ處斷スヘキモノナリ然ルニ原裁判爰ニ出ス舊法ニ在テ刑ノ最モ重キ詐欺取財ト新法ニ於テ最モ重キ官文書偽造罪トヲ比照シ舊法詐欺取財ノ刑ハ新法官文書偽造ノ刑ヨリ輕キヲ以テ舊法ニ從ヒ重禁錮五年ニ處スト云フモノハ如シ抑モ此判決タルヤ詐欺取財ノ罪ヲ以テ重キモノト爲シタルヤ將タ官文書偽造犯ヲ以テ重キモノト爲シタルヤ漠然トシテ其主意ノアル所ヲ認ムルニ由ナシト雖モ前ニ述ル如ク詐欺取財ノ罪ヲ重ト爲シ其刑ヲ科セハ新法ヲ輕ト爲シ重禁錮二月以上四年以下ノ範圍ヲ出ルヲ得ス官文書偽造ノ罪ヲ以テ重ト爲シ其判決ヲ與ヘン歟舊法ニ依リ重禁錮十一日以上百日以下ノ範圍ヲ超ルヲ許サス然ルヲ相當ノ刑ヨリ重キ重禁錮五年ト官渡シタルハ治罪法第四百十條第十ニアル擬律ノ錯誤ナリ第二ハ被告カ他人ノ不動産ヲ冒認シテ抵當ト爲シタル事

件公廷上論告ヲ爲シタルニ裁判官ニ於テ被告カ他人ノ賣渡シ置キシ地所ヲ丹羽恒三郎ヘ書入レタルコトハ事實上明言シナカラ之レカ判決ヲ爲サ、ルハ治罪法第四百十條第七ニアル請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サ、ルモノナリ第三ハ偽造又ハ變換ノ證書ハ所有主丹羽恒三郎ヘ還附スト言渡シタルモ其證書ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト爲シ沒收セサル可ラス然ルニ玆ニ出テサルハ是亦擬律ノ錯誤ナルヲ以破毀ヲ求ムト云ヒ大審院立會檢事附帶上告ノ主意ハ新舊法ノ比照ハ舊法詐爲律官文書條ニ依リ懲役百日ト刑法第二百四條ノ輕懲役ニ比較シ私書偽造ハ例第二百四十六條懲役七十日ト刑法第二百十條ニ比較シ詐欺取財ハ同律ニ從ヒ懲役五年ト刑法第三百九十條トヲ比較シ尙ホ數罪俱發ノ例ニ從フヘキニ然ラザリシハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破毀アラシコト望ムト云フニ在リ刑事局ニ於テハ原裁判ハ越權ノ所爲ニ出テタルモノト認メ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判官渡ノ

全部ヲ破毀シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク柳モ戸長ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ
 行使シタル者ハ輕懲役ニ處スヘキ重罪ナルコトハ刑法第二百四條ニ依
 テ明瞭ナリ故ニ其所爲舊法中ノ犯罪ニシテ舊法ニ於テ詐爲官文書條
 ニ依リ官ノ餘ノ文書ヲ以テ論シ懲役百日ニ該ルモ新法ニ照ス時ハ刑
 法第二百四條ヲ適用ス可キ重罪ナリ然レハ則チ重罪裁判所ノ管轄ナ
 ルニ付治罪法第三百六十條ニ依リ管轄違ノ言渡ヲ爲シ且ツ本件ハ豫
 審ヲ經サルニ付豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲スヘキ者ナルニ原裁
 判玆ニ出テス新舊法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ重禁錮五年ニ處スト官
 渡シタルハ越權ノ處分ナリトス既ニ此點ヲ以テ破毀スヘキモノト認
 ル上ハ原檢察官ノ上告及ヒ本院檢事カ附帶上告趣旨ニ對シテハ辯明
 ヲ與フルヲ要セス

○擅ニ人ヲ制縛ノ件明治十九年
 第四百二十三號

控訴裁判所ニ於テ終審裁判ニ對スル事件ヲ受理審判シタル場合
 ハ其裁判ハ破毀スヘキモノナルヤ否
 長崎縣肥前國南高來郡島原村六番地士族無職原熊本縣巡查市川
 佐一郎ニ對スル被告事件

初審 天・草 支 廳
 終審 長崎控訴裁判所

本件ノ事實被告市川佐一郎ハ熊本縣巡查奉職中明治十八年七月一日
 夜町山口警察署長ノ命ニ依リ同職國枝虎次郎ト共ニ潛行巡回中同夜
 十二時頃田中力造木原逸平カ軍談立聽ノ歸途手ヲ拍キ通行スルヲ認
 メ料理屋ノ手先ニ使ハレ該店ニ於テ密カニ淫ヲ囁キ居ルヲ以テ巡查
 ノ來ルヲ報スル爲メノ合圖ナリト思料シ且、姓名住所ヲ問ヒ消防組共
 カ夜警ノ爲メ集合シ居ル梯久孫四郎宅ニ連行キ力造逸平ハ右消防組
 ノ者ナルコト判然シタルモ尙ホ怪シニ被告人ニ於テ右兩名ヲ早繩或ハ

帶ヲ以テ縛シ巡回ノ巡查永廣爲次ニ引渡シ之ヲ警察署ニ引致セシメ
 後被告人ハ歸署シ巡查見張所横ニ控ヘ居タル力造逸平ニ對シ前ニ思
 料シタル如ク料理屋ノ手先ナルヲ陳述セシメントスルモ右様ノ覺
 更ニナキ旨申立ルニ依リ繩索ヲ以テ嚴シク絞リ上ケ手ヲ以テ兩人カ
 左頬ヲ毆打シ或ハ木履ヲ以テ其膝部ヲ踏ミ且小使ニ命シ水ヲ持來ラ
 シメ急須ヲ用ヒテ力造逸平カ耳或ハ鼻ニ之ヲ注入シ拷責シタルカ爲
 メ力造ハ十一日間逸平ハ十九日間疾病休業ニ至ラシメ由テ被害者ハ
 公訴ニ併セテ私訴ヲ起シタルモノニテ其證據ハ被害者力造逸平カ告
 訴狀及ヒ右兩人カ豫審庭ニ於テノ事實參考ノ陳述并豫審庭ニ於テ證
 人松岡警部補カ陳述醫師某ノ診斷書等ニ由テ充分ナルモノト判定シ
 明治十八年十二月廿五日和審廳ハ刑法第二百八十二條ニ因リ重禁錮
 一年八月ニ處シ罰金貳十五圓ヲ附加シ且損害賠償ヲ言渡シタル裁判
 ナ不當トシ被告ハ控訴ヲ爲シタルニ終審裁判所ハ刑治第三百二十三

條第三百二十四條第三百一條ニ該ル所被告ハ嚮ニ沖繩縣巡查奉職中
 刑法第二百八十二條ニ因リ處刑ヲ受ケ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十
 二條第七十條ニ從ヒ一等ヲ加ヘ重キ第三百二十三條ノ罪ニ從ヒ處斷
 スヘキモノニシテ原裁判ハ其當ヲ得サルニ付治罪法第三百四十四條
 ニ從ヒ之ヲ取消シ重禁錮六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加ス證據品トシテ
 差押ヘタル急須壹個ハ警察署ニ還付ス私訴ノ裁判ハ原裁判其當ヲ得
 タルモノニ付之ヲ認可スト判定シタルニ之ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ
 爲シタリ其要旨ハ民事原告人田中力造ニ金五圓七拾五錢木原逸平ニ
 金八圓三拾貳錢賠償スヘシトノ言渡ヲ受ケタルハ服スル能ハス抑モ
 民事裁判所ハ專ラ證據ノミニヨラサル可ラス然ルニ始終裁判官ハ俱
 ニ證人警部補松岡安藝巡查永廣爲次カ妄像ニ出テタル空言ヲ採リ眞
 實ノ證言ヲ採ラス且巡查山本孫六其他二三ノ直接ノ證言ハ悉皆無効
 トシ間接ニシテ曖昧ナル急須又ハ梯久孫四郎ノ證言ヲ採用シテ罪ヲ

斷シ私訴ニ影響ヲ及ホシ終ニ賠償ノ旨渡ヲナシタリ彼ノ逸平ノ如キハ休業ニ至ラサルヲ明瞭ナルニ竹内元固ノ診斷書ノ如ク事後十二三日經過シテ成立タルヲ採用シテ賠償ノ旨渡ヲ爲シタルハ事實理由ニ不備アル裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求メンカ爲メ上告スト云フニアリ刑事局ニ於テハ控訴裁判所ハ受理スヘカヲサルモノヲ受理シ裁判シタルモノト認メ直ニ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ之ヲ破毀シ更ニ本訴ハ終審裁判ノ控訴ニ係ルヲ以テ受理ニ及ハス却下スト宣告ヲシタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク控訴裁判所ハ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判スル處ニシテ其終審裁判ニ對スル事件ヲ受理審判スル處ニアラサルヤ論ヲ俟タスシテ明晰ナリトス然ルニ民事原告人田中力藏ハ金八圓五拾錢木原逸平ハ金拾貳圓三十貳錢ヲ請求シタルハ天草支廳ノ公判始末書ニ明白ナリ果シテ然ラハ本案私訴ノ裁判ハ終審裁判ニ

シテ控訴ヲ爲スヲ得サルモノニ付控訴裁判所ハ之ヲ受理スヘキモノニアラサルニ原裁判所ハ之ヲ受理シテ本案ニ付言渡ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ上告趣旨ノ如何ハ辨明ニ及ハス

○盜贓牙保ノ件 明治十八年
第九百七十八號

大審院ヨリ某裁判所會議局へ移スト言渡シタル場合ニハ該會議局ノミ管轄權ヲ有シ其裁判所ハ之ニ關與スルノ權ナキヤ否

初審 大阪輕罪裁判所會議局

京都府下京區第五組八百屋町平民清水源兵衛ニ對スル被告事件

本件ハ被告事件ヲ大審院ヨリ大阪輕罪裁判所會議局へ移シタルモノニテ同裁判所會議局ニ於テ被告清水源兵衛ハ住所氏不知駒次郎ナルモノヨリ竊盜贓タルヲ知り明治十五年一月四日ヨリ二月二十七日迄ノ間四回ニ衣類都合拾壹點ヲ京都府下京區第十一組葛籠屋町高田靜次郎へ明治十五年一月下旬兩度ニ衣類八點ヲ京都府下京區第二十二

組博多町岩目岩吉へ明治十五年二月五日衣類三點ヲ京都府下京區第二十七組本町七條上ル町北村清次郎へ賣拂ノ牙保爲シタルハ其證憑充分ニシテ刑法第三百九十九條第四百條ヲ適用スヘキ輕罪ト判定シ大阪輕罪裁判所へ移スト言渡シタル判決ニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ大阪輕罪裁判所會議局カ其證憑充分ナリト認定シタルハ異議ナシト雖モ之ヲ大坂輕罪裁判所ニ移シタルハ管轄ニアラサル裁判所へ移シタルモノニテ治罪法第四百十條第三ニ適スル上告ノ理由アルモノトス凡ソ大審院ニ於テ豫審ノ言渡ニ對スル上告ヲ破毀シテ他ノ裁判所へ移スルハ某裁判所へ移スト云ヒ又ハ某裁判所會議局へ移スト云ヒニ様ノ言渡ヲ爲スハ往々見ル所ニシテ某裁判所へ移スト言渡サレタルルハ其全部ニ就テノ管轄ヲ移シタルモノニシテ會議局へ移ストノ言渡ハ其正當管轄ハ依然トシテ動カストニ會議局判決ノ手續ヲ改メシムルニ止ルモノト解セサル可ラス抑モ本案ハ大審院

ニ於テ大阪輕罪裁判所會議局へ移ストノ言渡シアリタルモノナレハ該會議局ノミ管轄スヘキ特權アルノミニシテ大阪輕罪裁判所ハ之ニ關與スルノ權ナレ何トナレハ大阪輕罪裁判所ヨリ之ヲ見レハ當然管轄違ナレハナリ然ラストセハ二箇ノ裁判所ニテ一事件ヲ管轄スルニ至ラン若シ此見解ヲ誤レリトセハ大審院ニ於テ故ラニ二様ノ言渡ヲ爲スノ必要ナシ或說ニ云フ治罪法第四百二十八條ヲ案スルニ大審院ニテ原裁判ヲ破毀シタルルハ他ノ裁判所へ移スヘシトアリテ其全部ヲ移スノ義ナレハ大審院ニテ現ニ二様ノ言渡ヲ爲スモ其歸スル所一ナリト是其思ハサルノ甚シキナリ蓋シ會議局トハ裁判所ノ一部ノ稱呼ナレハ已ニ裁判所ト稱スルルハ會議局モ亦此中ニ包含スルハ普通ノ道理ニシテ其全部ヲ擧ケタルヲ以テ其一部ハ必スシモ特書ヲ要セサルナリ然ルヲ以テ其移サレタル會議局ハ管轄違ナルモ管轄裁判所會議局ニ代リ豫審ノ言渡ヲ是非シ以テ或ハ之ヲ認可シ或ハ更ニ言渡

ヲ爲スヲ得ヘキ特權ヲ附セラレシモノニシテ大阪輕罪裁判所ノ管轄事件ヲ其會議局ニテ判決スル場合ト殊別アルコト勿論ナリ是其上告シテ破毀ヲ求ムル所以ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ原會議局カ之ヲ大阪輕罪裁判所へ移スト言渡シタルハ相當ノ判決ニシテ治罪法第四百十條第三ニ適スル破毀ノ原由ナキモノト認メ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ニ照シ棄却シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク本案上告ハ要スルニ大審院カ大阪輕罪裁判所會議局ニ移スノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ該會議局ハ之ヲ審理スルハ至當ナルモノ之ヲ管轄違ナル大阪輕罪裁判所へ移スノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在レ凡ソ豫審ハ公判ト共ニ其管轄密着シテ離レサルヲ要スルコトハ治罪法第三十八條乃至第四十四條等ノ精神ナリ故ニ豫審判事ハ治罪法第二百二十五條乃至第二百二十七條ノ場合ニ於テ自己ノ管轄ト同一管轄ナル重罪輕罪違警罪裁判所へ移スヘク若シ然ラ

サルルハ治罪法第二百二十三條ニ依リ管轄違ノ言渡ヲ爲サ、ル可ク又決シテ他ノ管轄裁判所へ移スノ言渡ヲ爲スノ權ナシ故ニ假令大審院カ原會議局ノ裁判ヲ破毀シ他ノ會議局へ移スノ言渡ヲ爲スニモセヨ他ノ會議局ハ復之ヲ原會議局ト同一管轄ナル裁判所へ移スノ言渡ヲ爲スヲ得サルナリ何トナレハ若シ之ヲ原會議局ト同一管轄ナル裁判所へ移スルハ即チ治罪法第二百二十四條ニ背戾シタル越權ノ裁判ナレハナリ然ルヲ以テ大審院カ原會議局ノ判決ヲ破毀シテ之ヲ他ノ會議局へ移スト言渡スモ獨リ會議局ノ管轄ヲ移シタルニアラスシテ豫審公判共ニ其管轄ヲ移シタルモノナリ若シ然ラサルハ豫審公判共ニ其管轄密着シテ離レサルヲ要スル法律ノ精神ニ背戾スル不法ノ裁判ナリトス然リト雖モ上告者カ論旨ノ如ク一概ニ大審院カ會議局へ移シ又ハ裁判所へ移ストノ二様ノ言渡ヲ爲スノ必用ナシト云フヲ得サルナリ何トナレハ大審院ハ會議局ノ判決ヲ破毀シタル場合ニ於

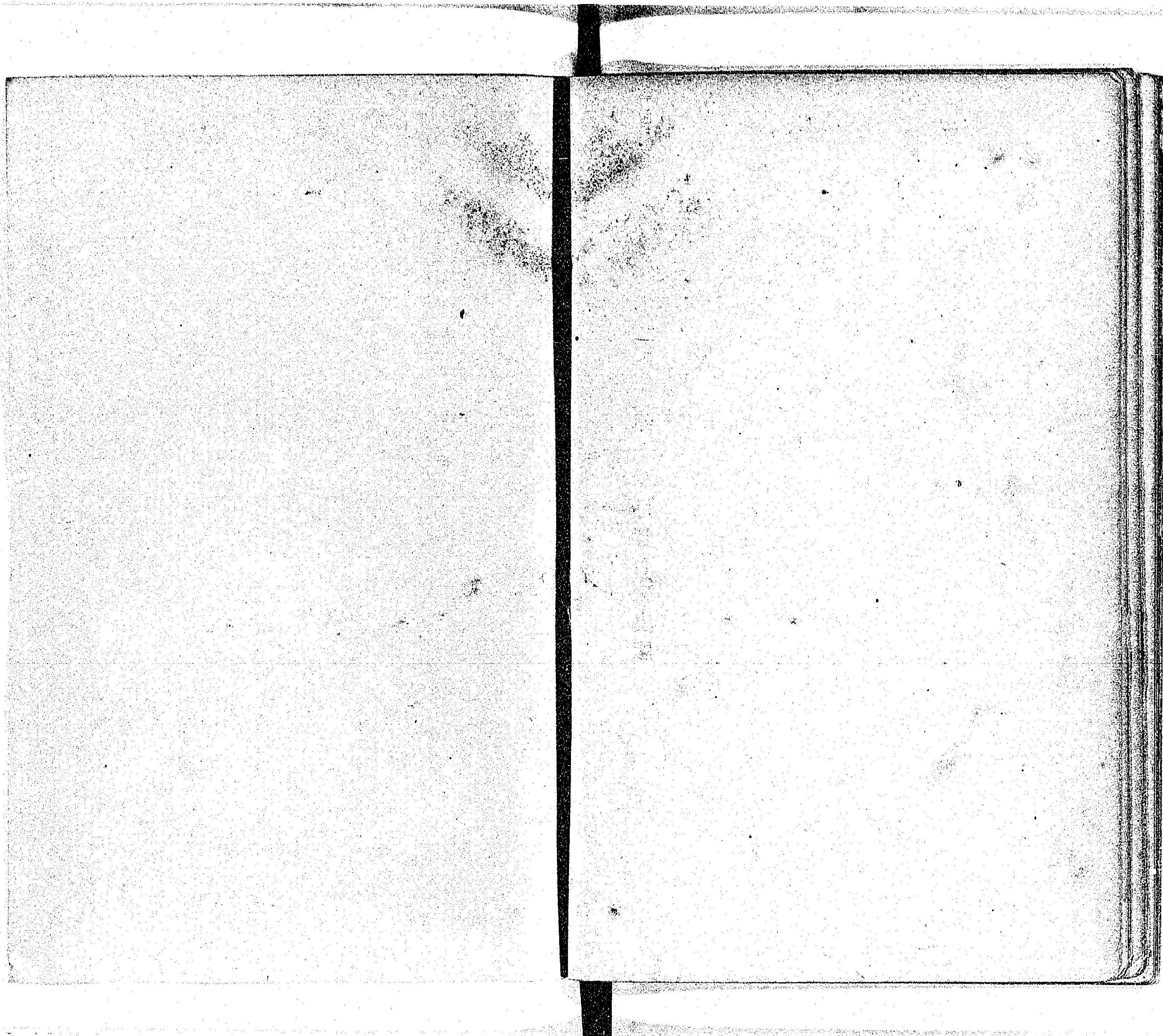
テモ公判ノ裁判ヲ破毀シタル片ノ如ク單ニ某裁判所へ移スト言渡ス
敢モテ治罪法第四百二十八條第四百三十一條等ニ背戾セサルハ勿論
ナリト雖モ殊ニ某輕罪裁判所會議局へ移スト言渡ス所以ハ其移サレ
タル裁判所ニ於テ一目シテ先ツ其會議局ノ判決ニ付スヘク直チニ公
判ニ付スヘカヲサルコトヲ知ラシムルノ便アレハナリ

明治二十三年十二月廿七日出版

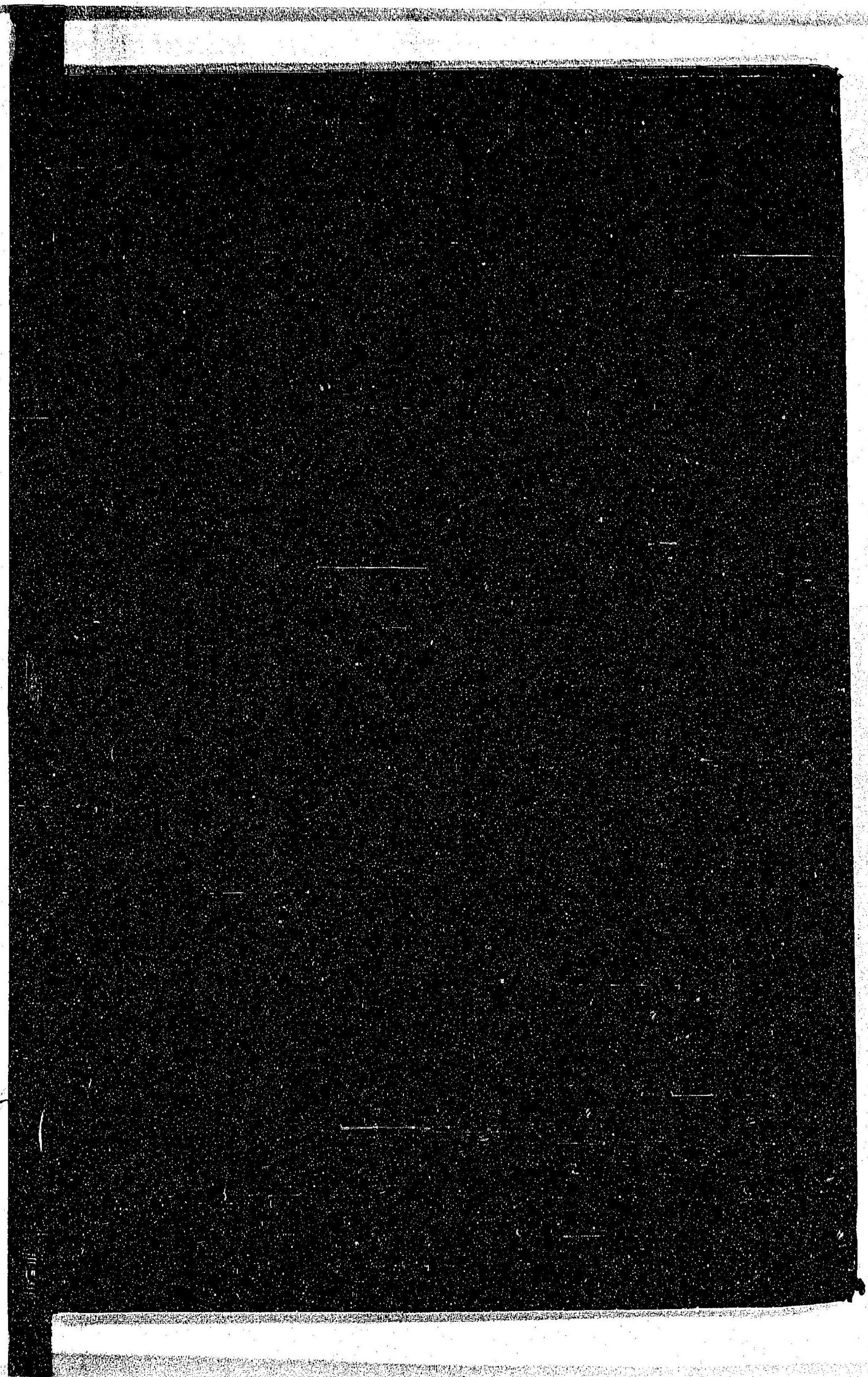
司 法 省

發 賣 所

東京銀坐四丁目
博 聞 本 社



147
/



036550-066-9

CZ-2711-7

大審院刑事判決録

明8.6-17.11. 19-20年

司法省

M11-24

BBR-0381



